

緑陰随筆

夏季特集号

山口県医師会報

No 1686

発行所 山口県医師会
〒753-0811 山口市大字吉敷 3325-1
TEL 083-922-2510
編集発行人 藤井康宏
印刷所 大村印刷株式会社
定価 220 円（会員は会費に含め徴収）
昭和 31 年 3 月 15 日 第 3 種郵便物認可
（毎月 3 回 1 の日発行）



ホームページ <http://www.yamaguchi.med.or.jp>
メールアドレス info@yamaguchi.med.or.jp

表紙写真に寄せて

山 口
渡 辺 恵 幸

— Photograph —

第 45 回山口市美術展覧会
大賞 「はぐれ蛍」

勤務医時代に多くの死を診とりました。そんなある日、いつものようにご臨終と自分のいたらなかったことを平然と述べている自分に愕然としました。患者さんの家族にとっては一大事なのにこちらはあまりにも慣れきっていました。慣れは必要だろうけれど、これでいいのだろうかと自問自答したことがあります。

いつまでも感動する気持ちを持ちたいということと気分転換のために始めたのが写真でした。平成 7 年の第 38 回山口市美展で 1 回目の大賞を受賞しました。平成 13 年 4 月に開業。さすがにその年は余裕がなく写真は撮りませんでした。平成 14 年 6 月末のある夕方。最盛期をすぎた蛍がちらほらと飛んでいました。蛍の持つはかなさと過去、現在そして未来へと流れ続けるであろう山口市・一の坂川の存在をポジフィルムの特性を利用して表現したのが表紙の写真です。ちなみに表題の「はぐれ蛍」の意味は季節はずれの蛍という意味です。

この写真にて同年第 45 回山口市美展で 2 回目の大賞を受賞しました。記録から見ると一人で 2 回の大賞を受賞した人はいないとのことでした。はからずもこれにて山口市医師会より本年 5 月に表彰を受けました。本業以外で表彰されるのは面映いことでした。これは長年、山口市医師会報や県医師会報の表紙写真を提供している山口市医師会写真同好会に対する慰労の意味も込められているものと思い、ありがたくいただきました。赤川悦夫会長や理事の諸先生のお計らいにあらためてお礼申し上げます。

この写真を見られて、どこに蛍がいるのかと思われる方が大部分だろうと思います。それが作者のはかなさの表現とあっていただければ幸甚に存じます。

最後に夏号のため、あまりにも綺麗で感動した角島の海を添えます。

も く じ

Contents

●表紙写真に寄せて……………	山口 渡辺 恵幸	2
●素敵な出会い……………	宇部 中野 朋子	4
●千人針……………	岩国 沖井 洋一	5
●介護ふん戦記……………	徳山 望月 一徳	6
●ラグビー馬鹿一代記……………	山口 河野 俊貞	8
●ロッキー山中にて……………	阿武 原 晴朗	11
●故本庶正一氏の思い出……………	岩国 藤本 典男	12
●北上展勝地公園の桜と名木石割桜……………	下関 織田 登	14
●新樹……………	山口 国近 満男	16
●北欧で老人福祉を学ぶ……………	徳山 姫野 英雄	18
●書「夢」……………	熊毛 高本 公	19
●ファドの一夜……………	下関 江藤 澄哉	20
●今昔物語……………	下関 塩見 祐一	22
●将来の社会福祉と医療保険制度にネオコンと絡まる日本政府と日本経団連の相互関係を考察……………	宇部 山本 一男	23
●ベトナムの SARS に思う……………	下松 岩本 功	26
●萩市長添山から観る歴史（二）……………	萩 山本 貞寿	28
●16 歳の兵士の夏……………	下関 西川 康夫	30
●元心臓血管外科医として昨今思うこと……………	下関 吉利 用和	31
●携帯メールは ばあちゃんを救う……………	下関 奥園 美子	33
●学校医 47 年栄えある叙勲……………	下関 倉富 拓己	34
●『見える』とは……………	宇部 長谷川奈津江	36
●また、今度、いつか、そのうち……………	防府 御江慎一郎	37
●我が家の主婦はお父さん……………	下関 小笠原万里枝	38
●螢……………	徳山 徳 医 句 会	39
●趣味……………	山口 燐 森松 光紀	40
●はなわの「佐賀県」考……………	下関 赤司 和彦	41
●常識・非常識・異常識？……………	宇部 若松 隆史	43
●白アスパラガスは初夏の訪れ……………	防府 平井 得夫	44
●雑感……………	山口 村本 剛三	45
●新穂高遠征記……………	豊浦 飴山 晶	46
●漢文とのかかわり - 玉乃世履の研究余話 - ……	岩国 吉岡 達生	48
●＜シリーズ 酒場の戯れ話＞……………	宇部 綿菊 仁彦	50
●あとがき……………	編集類 加藤欣士郎	55

素敵な出会い

宇部 中野 朋子

庭の紫陽花が咲き始め今年も雨の季節がやってきた。

ちょうど一年くらい前の雨上がりの日の朝、駐車場のアスファルトの上で一匹のカタツムリを見つけた。近頃はカタツムリもあまりみかけなくなったので懐かしくなり飼ってみることにした。名前は「デンコ」にした。プラスチックの飼育ケースに畑の土を入れて草をしきキャベツをいれてみたところすぐに食べ始めた。カタツムリは食べたものと同じ色のフンをすると昆虫図鑑にかいてあったのでいろいろな野菜をやってみたところ、なるほどその色のフンをしてくれた。

カタツムリは雌雄同性であるので、1 匹では産卵はせず、2 匹いると交尾をして 2 匹ともが産卵するらしい。そこでお相手を探してやろうとあちこち探し回ってみたが、いっこうにみつからなかった。「デンコ、おまえさんのパートナーを探してみただけれどみつけれなかったの。ごめんね。」

一週間がたちフンの掃除も大変になってきたので放してやることにした。子供たちは名残惜しそうにしていたが、虫などには興味のない夫が私の外出中に土ごと畑へ放ったようだった。外出からもどった私は空になったケースを洗っておこうと手にとった時思わぬものが目に入った。ケースの隅に半透明の小さな粒が 20 個あまりくっついていたのである。「これ何…？ もしかして…卵だ！」これまでにカタツムリの卵なんてみたことはなかったがそう確信した。そういえばいつもならケースのふたの裏にばかりくっついていてデンコが数日前に珍しく土の上にじっとしていたことを思い出した。あの時に産んでいたのか？ えっ、でも一匹なのに…？ そうか、卵をかかえたまま私に捕まえられたのか…。

私は秘宝を手に入れたような気持ちになって胸をおどらせながら再びケースに土をもどした。そして霧吹きで土の水分を保ちながら赤ちゃんカタツムリの誕生を楽しみに待つことにした。およそ 3 週間後、いつものように飼育ケースを覗いた時に何やら動くものを発見した。なんと 1 ミリくらいミニカタツムリがケースの壁を登っていた。ふたを開けてみると他にも 10 匹くらいいた。動いていなければ砂粒と間違えそうくらいだがよく見ると小さな殻と小さな触角もあり真正銘カタツムリであった。ゆっくりではあるが確実に歩む姿にしばし見とれてしまった。

1 匹のカタツムリに駐車場のアスファルトの上で出会い（車に轢かれる前でよかった）、1 週間ほど飼っていた間に産卵。その卵を危機一髪のところ保護し、赤ちゃんカタツムリが誕生したのである。「なんて私は幸運なのだろう！」と感激していると夫がひとこと。「おめでたいヒトやなー。」

その後、赤ちゃんカタツムリたちも庭の草むらに帰してやったが、同じ季節がめぐり来た今、小さなカタツムリをみかけると、あの時の赤ちゃんではないかと目をとめてしまう次第である。そしてあんなドラマチックな出会いをしたデンコに、「素敵な出会いをありがとう。」と言いたくて雨上がりの紫陽花の葉の上にその姿を捜してしまう今日この頃である。



千人針

岩国 沖井 洋一

最近、私の使用する下着には、幼稚園児のように名前が書いてある。妻が書いたものである。

数か月前、私は検査と治療の目的で心臓カテーテル検査を受けた。半年前から、ときどき狭心症状があり、心電図でも軽い冠動脈障害を指摘されていた。あまり気が進まなかったが、永年の酒とストレスで溜まった心臓冠動脈の苔を、カテーテルで掃除してもらうことにしたのである。

一泊二日の間、酒も飲めないだろうと思って入院前夜に酒を十分に呑んでおいた。

当日は、宿酔と基礎麻酔とでウツラウツラの状態のもとに、カテーテル検査が始まった。検査しながら術者はモニターの所見を説明してくれるが、私は夢の中で昨夜の飲み屋のママとの楽しい会話などを思い出していた。ところが、途中で術者は私を揺り起こして「検査をやめます」といった。

私が寝言で、飲み屋での会話を口走って術者の気分を害したのかと思ったが、そうではなかった。冠動脈の根幹部に狭窄があり、カテーテルでの処置は困難。心臓外科での手術の適応である、と告げられた。そして、心臓外科の主治医も参加して相談し、その日のうちに手術することとなった。

妻と一緒に、主治医から手術の説明、インフォームドコンセントを受ける。冠動脈 3 枝を 4 か所で吻合する、それにともなうリスクの説明もある。妻は寝耳に水で、私の顔に意見を求める。しかし私は、さきほどの基礎麻酔がまだ効いていて、椅子に座ってボーッとしていた。後になって、妻は、私がことの重大性に判断ができなくなっているのかと思った、と云っていたが、その程度で慌てる私ではない。私の頭の中は、まだ昨日の飲み屋の続きであった。

麻酔医からも説明がある。「血縁者で、手術中に高熱を出した人はいませんか？」はあ、悪性高熱症のことだな。大学の医局にいた頃、一例遭遇したことがあったが、あの人は助からなかったなあ、などと考えているうちに、準備はどんどん進め

られていく。ナースが全身を剃毛清拭してくれる。「キレイなお臍ですね。」

「臍は母親の形見だから、大事にきれいにしておかないとね。」

夢うつつ状態で会話する。

後は、妻に見送られたわずかな記憶だけ。ゴトンゴトンと揺れたのは、ストレッチャーで運ばれたのか。

私たちが小学生時代、戦時中に駅の出口で「千人針」を作る女性たちをよく見かけた。

「千人針」とは、出征して戦地に行く兵隊が身に付けるもので、白い晒し布に赤い針糸を刺して千個の縫い玉をつけたものであった。この布を腹に巻いていると、敵の銃弾が当たらないとされていたのである。赤い縫い玉は、一人の女性が一個づつ千個、すなわち千人の女性が真心を込めて針を刺して縫い玉を作ったものであった。

夫が戦地に行くこととなった女性が、背中に子供を背負ったり、あるいは大きなお腹を抱えて、駅の出口など多くの女性が通る場所で、その人たちにお願ひして「千人針」の縫い玉を作ってもらっていた。

国家権力で戦場に夫を奪われ、それでも無事に生きて帰ってくることの祈りと願いを託して、妻にできることは「千人針」を作ることしかなかったのである。

私は、全身麻酔をかけられて手術を受けていた。手術にはリスクがあることは、インフォームドコンセントされていた。

リスクは 1% であれ、0.1% であれ、命にかかわることがあるわけである。妻は私の手術が無事終わることを願って、手術の後で使う予定の下着に私の名前を書いていたという。何枚も、何枚も。

下着に名前を書くのは、現代の「千人針」だったのかもしれない。

そして私は、今もその名前入りの下着を使っている。

介護ふん戦記

徳山 望月 一徳

初めにお断りしておきますが、この雑文は食前後、食事中には読まないでください。食間にお読みください。タイトルにある“ふん戦”とは奮闘の“奮”であります。が、“糞”との戦いでもあるのです。

私も夫婦は共に末っ子で、4 人の両親はいずれも明治生まれでしたから、もうとっくの昔に見送りました。最後の親が亡くなって、もう 13 年にもなります。いずれの親も長男夫婦が、世話をしてくれました。故郷を離れていたこともあり、老親の介護の苦労は聞くだけという立場でした。介護の本当の苦労を知りません。

ところで、鶴田浩二の残した唄に、「右を向いても、左を向いても真っ暗闇じゃござんせんか…」と言うのがありました。今では、「右を向いても、左を向いても老人ばかりじゃござんせんか?!」と言うほど後期高齢者が増えました。鏡を見れば、向こうからもう 1 人の前期高齢者がこちらを見ていると言う按配です。

日本中が年寄りだらけとなりました。いずれの高齢者も子が面倒を見ています。当然と言えば当然ですが、日々の介護にご苦労されていることとお察し申し上げ、心からお見舞い申し上げます。

さて、これからお話する“介護ふん戦記”は、16 才にもなる後期高齢犬（メス）の日々譚です。今日、高齢化しているのは、人間ばかりではありません。癒しの時代のペットたちも高齢化の波をかぶっています。犬にとっても平成の世は、恵まれた衛生環境、豊富な食物で長生きになりました。

この犬は平成 10 年に雷に怯えて失踪し、1 ヶ月後に飲まず食わずで“奇蹟の生還”をいたしました。ことの顛末は、平成 12 年の緑陰随筆で読んでいただきました。

「そんなこと、覚えていない…ですって?!」、「アレー、あなたも高齢者のお仲間ですか？ ぜひ、当時の随筆集を読んで思い出してください」。

犬の 16 才と言えば、人間に換算すると一体何歳になるのでしょうか。犬の 1 年を、単純に人間

の 7 年に相当するとしても 100 歳を超えています。犬の世界のきんさん、ぎんさんと言ってもいいでしょう。

皺、しみ、白髪は老化のトリオですが、犬は毛皮を着ていますから顔の皺は、あるのかないのか判りません。その代わり、3 年ほど前から左右の胴体に 6～7 本の波のような横すじが目立つようになりました。畑の畝を想像していただければ、胴体の皮膚の弛みが毛並みに及んでいる、とお判りいただけると思います。初夏は冬毛の抜ける時期でもあり、体全体がボロ雑巾状態です。口の周りの髭は、随分前から白髪ばかりになっています。

歯は、下顎の前歯が 2 本自然に抜け落ち、隣の残った歯もぐらぐらになっています。口を開けて調べるのを嫌がるので、奥の歯がどうなっているのか判りませんが、ぶ厚い歯石が付いており歯槽膿漏（歯茎が赤くなっている）になっているに違いありません。今年になってから、左の目から盛んに目ヤニを出すので調べてみたら、上眼瞼から小豆大の腫瘍が発生して、眼球結膜を刺激していることが判りました。いくら目薬を注しても、目ヤニが止まらないわけです。

胴体の皺にボサボサの毛並み、白髪の口ひげ、歯抜け、目ヤニとくれば一見して老犬と判ります。町内を毎日ウロウロするのが仕事の老女から、すれ違うたびに、「この犬は年を取りましたね」と、ご挨拶です。町内一の年寄りからのメッセージですから、我が家の老犬も行くところまで、行っています。

この 2～3 年、路地を人が通っても吠えなくなりました。耳が遠くなったのです。昔は、人の訪問に呼び鈴がわりになっておりましたが、これでは泥棒の用心にはなりません。後ろから近づいたら、体に触るまで気がつきません。障害者手帳 2 級に該当でしょう。その代わり、視力はまだ大丈夫（長生きの犬には白内障が多いと聞きますが…）のようで、50m 離れた駐車場から家に向かう坂道を、とぼとぼと迎えに下りてきます。

高齢になると、ヨチヨチ歩きは人の常ですが、

犬も同様にヨチヨチ歩きの前足の二歩に次いで、後ろ足は一步というリズムで歩きます。腰筋の衰えと下肢の筋力の著しい低下のため、お座りができません。何時も四ツ足で立っています。しかも両下肢には、本態性振せんがあります。それでも散歩に行きますから、犬の嗜好の一番が散歩というのは、本当です。散歩に行かなくなったら、彼らの人生は終わりなんでしょう。勿論、人が先に立って、後から犬がついてくるという風景です。

平成 9 年に相次いで亡くなった我が家の駄犬 2 匹は、同じ頃、歩けなくなると同時に絶食をして自ら命を絶しました。駄犬ながら、みごとな最後は平成 11 年の緑陰随筆に“犬の葬式”として書きました。

「アレー、忘れ了吗か?! 年を取ると端から忘れますから…、気にしないでいいですよ。また読んでください」「エッ! 会報は、端から捨てる?!

そんなご無体な!」。

この犬を見ていると、長生きのコツはなんともいっても快食、快便に尽きるといいでしょう。純粋の雑犬でしかも超がつく駄犬のせいか、天命を知るといふ本能（足が弱ったら、最後だという思考）が欠けています。衰えたことなど気にしないで、とにかくよく食べるのです。

彼女の一日のメニューを紹介しましょう。早朝、散歩のあとは賞味期限の切れたパン（最近手に入りくいのですが…）一つ、ドッグフードをカップ一杯分食べたあとも、じっとこちらの顔を見つめるのでまだ足りないことが判ります。締めには彼女の大好物のスルメ（東南アジア製のくさいやつ）を 2～3 切れ、その後、やっと諦めて小屋に入って朝寝です。メインは夕食で、家内が誂えた食事は洗面器にテンコ盛りです。そんなに食べさせて大丈夫か、という程の量です。あっという間に食べて残りのご飯粒や苦手の野菜は、ノラ猫や雀の餌です。とにかく、生まれて以来、食欲のないことがありません。ですから、出るものがそれはそれは感心するほど出ます。

これからが、“介護ふん戦記”です。今年になってからのことですが、早朝廷に降りてみると、庭中のあちこちに“ふん”が転がっております。ある朝などは、小屋の入り口と言わず、中と言わず一杯に汚しています。人間で言えば蒲団の中にしているようなものです。若い頃は、決して人の目につくような所にはしなかったのですが、ボケたんですね。叱ることもできません。

そこで夕食の後は、庭の出入りを自由にしてやりました。家内が夜の 10 時頃、家の周りの道路を点検します。催すと道路の真ん中に、平気でするんです。

そんなこととは露知らぬ昨夏のことです。お盆の墓参りに出かける寸前、購入したばかりの新車の前輪に異様な臭気です。いち早く気付いた家内が、「行儀の悪い犬と飼い主は、何処のどいつか…」と、今から思えば、自分達自身への悪口雑言です。泥よけまで跳ね上がった汚物をシャワーで、タイヤの溝に埋まったのは、爪の垢をとる要領でないと綺麗にはなりません。出発が 20 分も遅れたものです。

だから、これを通りすがりの車が、踏みつけて行くとタイヤの周径の長さに応じて点々と後を残すことになります。水で洗い流すのに手間が大変です。車の持ち主も、後で気がついてご立腹でしょう。夕食後に一回、そのチャンスを与えてやれば、夜中に蒲団の中で失敗することが減ります。この“夜の大捜査作戦”は、今のところ成功しています。

早朝の散歩は、人間だけではなく犬にも一日の始まりに当たり、気分が爽快になるようです。そこで、さっそく我が家の駄犬は催します。もちろん、道路の真ん中です。後ろ足が弱って日頃から、お座りの姿勢ができません。ウンコ座りはもっと出来ません。している最中に、ウンコの上に尻餅をつくんです。だから、その最中は、腰を持ち上げてやります。同時にさっと、要領よくシャベルを差し入れます。人間の手が 2 本しかないことを、残念に思います。

かくして、駄犬の尻の始末をした紙袋を下げて意気揚揚として家路につきます。これがこのところ我が家の一日の始まりです。

＊ ＊ ＊

私たち夫婦は、老親の介護をしませんでした。その代わり、人間なら 100 才にもなろうかという老犬の介護で、その大変さを味わっております。その経験から、「介護とは、下の世話だと見つけたり」が結論です。

あと 10 年もすれば、我々も後期高齢者の仲間入りです。どちらを向いても、年寄りばかりの社会になります。だから、そんなことにならないうちに、ポックリと行きたいものだと夫婦の会話です。

しかし、最後を悟って絶食するなんて、腹減るしなあー。「シロ（“犬の葬式”の犬です）よ! ほんまに、お前は偉かった!!」

ラグビー馬鹿一代記

山口 河野 俊貞

私は、山口県立山口中学 2 年、昭和 14 年(1939)春以来ラグビーに取り憑かれている。中学 3 年昭和 15 年(1940)秋、山口中学は第 23 回全国中等学校ラグビー大会中国予選で宿敵広島 of 崇徳中学を破り、全国大会に駒をすすめたが、私は寮生であったのとツ反応強陽性のためメンバーから外れた。その全国大会に出場した選手も 4 人を残し、鬼籍でラグビーをしているだろう。

中学 4 年昭和 16 年(1941)の春、蹴球のクラスマッチでゴールキーパーを務めたが、多発性関節痛のためイージーボールも防ぎ得ず惨敗しチームメートに謝った。今にして思えば、結核性のものだったのか。

4 年の 2 学期から寮を出て、現住地から通学し休学することもなく 5 年に進学した。中学 5 年昭和 17 年(1942)になってから、体調も良くなったがラグビーへの復帰はせず、当時の国防競技班に入り県体育大会に参加した。山口中学を昭和 18 年(1943)に卒業し、佐賀高等学校を受験したが失敗し、浪人できる時代ではなく宇部高等工業学校の工作機械科に進学した。そこは全寮制で早朝は海軍体操で鍛えられ、課外運動として闘球(ラグビーは外国用語だとして使用できず)の練習はできた。

昭和 18 年(1943)夏休み前半は大竹海兵団で海洋訓練をうけ、後半は沖ノ山炭鉱で勤労働員として採炭を経験した。昭和 19 年(1944)には勤労学徒動員で下松笠戸工場に赴き、昭和 20 年 6 月(1945)まで蒸気機関車のボイラーの支柱削りと、陸軍の輸送潜水艦部品作りの旋盤作業を専らとした。その間、粗忽者のため古旋盤の操作ミスから左肩と右示指を負傷し休養したこともあったが、休憩時間には楕円形のボールを蹴っていた。5 月 10 日午後は徳山空襲の日で、外泊

からの帰途に寄った嘉川の友人宅から遥かに徳山燃料廠の燃えるのを見た。早速、小郡から汽車で下松に向ったが、福川駅からは線路つたいに歩き歩き徳山駅では煙の中をかい潜って下松まで歩いた。

やがて動員解除となり、山口線・宇部線と乗り継いで常盤台まで通った。授業中に宇部市上空を我が物顔に飛ぶグラマンを見たり、汽車通の貨車が襲撃されたりした。確か、宇部市の空襲は 7 月 2 日と記憶している。8 月 6 日(1945)夕方、小郡駅で壮絶な負傷者を見てただならぬ事態の起こったことを実感した。翌日、短波放送を聞いたとする教授の新型爆弾だとの説が頷かれた。戦局は 8 月 9 日、8 月 15 日と推移し、授業は昭和 20 年 9 月の繰り上げ卒業に向けて進んだ。9 月早々の台風の朝、西宇部を廻り厚東川の鉄橋を怖々わたり電気工学の卒業試験を受けたが頑固者の溝口教授から「山口から台風をおしてよく来た」と褒められた。

さて、卒業はしたが就職する自信もなく、母校学校工場の助手として山口線・宇部線を乗り継いで通勤し、春の大学受験に備えた。その 10 月のある朝、湯田駅で軍服姿凛々しい懐かしい重富克美君の姿があった。彼は中学 3 年の春早く父君の軍務の都合で満州新京一中に転校し、その後の消息がなかったが、新京一中でもラグビーで鳴らし全満を制覇したと聞いた。さらに、彼は樺太医専から医科系学徒として軍務についていたが、終戦となり早々に帰国し県立山口医専の編入試験に行くところとわかった。彼とは山口中学 3 年の春までのラグビー仲間なので、車中の会話は 5 年間の沙汰無しもことラグビーに関してはいち早く理解し、戦後ラグビー復興についての話題の虜となった。(ここまでは 5 月 14 日に書き終えていた)

さて、平成 15 年 5 月 15 日早朝、いつもの朝風呂につかりながらラジオ放送を聞いていたところ、「今日は何の日」で、昭和 7 年(1932)に起こった 5・15 事件で犬養毅首相が海軍士官に射殺され政党内閣制に終止符をうった日、31 年前の昭和 47 年(1972)に沖縄が返還された日と聞き、いずれも遠い昔話になったと思う間もなく、102 歳の患者が喉を詰まらせて苦しがっていると電話が入り、差し当たり救急時に使う携帯用の吸引器を持って駆けつけた。ゼロゼロのわりにチアノーゼもなく、早速家族相手に吸引することしばし、在宅 30 分ばかりで退去する。発熱がなければ善しとして、家族に観察を依頼する。午前 11 時に今朝の患者は特に異常がないと連絡があり一安心したところに、阿武郡の粟屋二郎先生から畏友重富克美君逝去の知らせが入る。かねて、病床にあると聞いていたので粟屋先生や小林茂先生(田代台病院)と見舞おうと思っていたのに、巨星墜つの感しばし。

これからしばらくは重富君とともに山口クラブメンバーとして山口県内での活躍、山口医専ラグビー部の創設と協力した強い山口医専の時代等について触れておきたい。

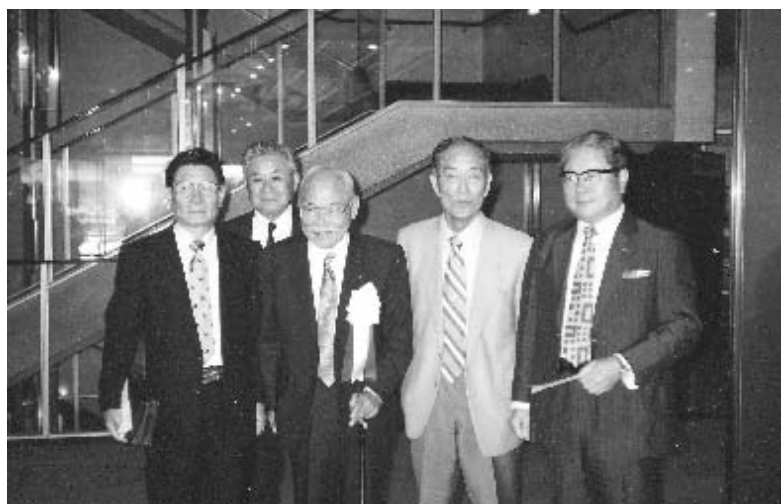
昭和 21 年春は(1946)九大工学部受験に失敗し、旧制山口高校の化学教室助手の傍ら山口中学や山口高校(旧制)でラグビーを楽しみ、夏には山口医専の合宿を手伝った。その秋に山口医専は、西日本高専大会(熊本)で福岡経専に 9 対 6 で惜敗。また同年初冬、全国高専大会中国予選決

勝(宇部)では広島工専に 6 対 3 で敗れている。私も、昭和 22 年(1947)名古屋大学理学部受験に失敗して、浪々の身ながらラグビーにかけては山口中学や山口医専の練習や山口クラブのメンバーとして山口県内外で大いに楽しんでいた。さて、昭和 21 年(1947)からの県立山口医専の存続をかけて、重富君の活躍は素晴らしく、昭和 24 年(1949)には山口県立医科大学として存続することになった。そのため、昭和 22 年 9 月から予科制度が設けられ、1・2 年生が募集されることになったからと、重富君から予科 2 年編入への誘いがあり、辛うじて 2 年に編入となり医学への路が開けた。相変わらずの汽車通学ながら、ラグビーの練習も全国高専大会出場が目標ができて充実した日々であった。グラウンドではドイツ語の力武教授の畑にボールを蹴り込んで、「君は教室では目立たないが、グラウンドでは」とも言われた。その冬の全国高専大会中国予選決勝(広島)に参加したが、広島工専に 17 対 3 で惜敗。昭和 23 年度(1948)には宇部工専と苛烈な予選を経て、全国高専大会中国予選決勝(山口)で終に山口医専が 14 対 11 で広島市立工専に辛勝し、待望の全国大会出場権を獲得した。

当時、今は故人となられた藤田・佐藤氏や校友会から絶大な物心の応援をいただいて夜行列車で上京したが、昭和 24 年正月(東京)(1949)全国高専大会 1 回戦で巨漢橋本選手を擁する早大専門部に 43 対 0 で惨敗した。余談ながら、昭和 22 年・23 年には、夏・秋の強化合宿は湯田の私

の家で行い、米は重富君、寝具・みそ・醤油と缶詰類は木下謙治君。炊き出しは私と小林茂君が分担し、経理を粟屋二郎君がみて経費を少なく済ましたものだった。当時のこととて、町角の雑貨屋で買った芋飴が唯一のカロリー補給でもあった。こうして重富君等と組んで活躍した強い山口医専の時代も終わった。

ここで、当時を偲んでメンバーを背番号順に書き記しておく。(故人となった方々もあり、また敬称も省略。)



平成 13 年重富克美君喜寿の会にて

- 1 藤 井
- 2 重 富
- 3 園 田
- 4 松 前
- 5 治 部
- 6 荒 木
- 7 阿 部
- 8 市 丸
- 9 小 林
- 10 河 野
- 11 富 恵
- 12 熊 野
- 13 木 下
- 14 平 本
- 15 荒 木
- 16 笹 尾
- 17 粟 屋
- 18 石 井

昭和 24 年（1949）4 月、長崎医科大学に進み、第一次山口時代はこの夏の山口高校夏合宿の参加で終わった。というのもこの夏休みには国鉄の先輩の配慮で、蒸気機関車の石炭殻荷下ろしのアルバイトにありつき、アルバイト代で解剖の本が買えると意気込んでいたが、不用心にも練習の最中に盗難に遭い医学生必携の岡島解剖学の購入ならず、初冬から始まった解剖実習には松本哲男先生（宇部市）に借りたスパルテホルツを書写して済ました。

長崎時代は、夏には山口から木下謙治君を招いて長崎東高校のコーチをして強いチーム作りを手掛けた。そして、秋からは長崎クラブチームのメンバーとしても活躍した。当時はシーズンオフの春から夏にかけては原爆跡生々しい浦上天主堂下の医大グラウンドで 110m ハードルや 400m ハードルに挑み、長崎大学のメンバーとして九州インカレに挑戦し、100 メートルを 11 秒 5 そこそこで走っていた。その合間には春早く、クラスメイトのキャンパを受けて、祖母・傾・久住山系への山

歩きを 4 年間楽しんだ。亡くなった田村武男先生と歌った「坊がつる讃歌」に、涙したものだ。

3 年・4 年には新制大学のメンバーも充実したので、ラグビー活動をしたが名手中田選手を擁する西南学院大学はどうしても破ることができなかった。昭和 28 年（1953）から 1 年間九大でインターンを終え、昭和 29 年（1954）春過ぎて九大医学部第 3 内科（故沢田藤一郎教授）に入局した。それから昭和 37（1962）年 7 月に山口湯田で開業するまで福岡を拠点として九州ドクターチームに参加して関東・関西ドクターとの対戦、福岡地区リーグで迷惑チームとも対戦した。

昭和 37 年 7 月に開業してからは、国体に備えてチーム作りに余念のなかった藤永誠治君の率いる山口農業高校のチームドクターとして協力した。昭和 38 年（1963）秋山口国体では天皇杯委員として参加し、開会式で故赤川次郎先生が全国表彰の代表として登壇されたのをみて感激した。国体以来、山口県ラグビー協会のメンバーとして第二次山口時代を過ごすことになった。

プレーは昭和 58 年春（1983）日本医学総会（大阪）で故佐野和男先生が「山口県の地域医療の取り組み」について発表されたのを聞いて、長居陸上競技場に赴き交歓試合で九州チームに入って若手相手に雨の中できついゲームをした。そして秋の滝口氏追悼のゲームが最後になった。その代わりにラグビー協会医務委員の仕事とゲームドクターとしての場が与えられ、一人相撲をとっていた。しかし、山口会場では小田清彦・田中宏先生の協力があり、俵山にグラウンドができてからは梶山公則・池本和人先生の参加があり、周南地区ではスクール・ジュニア育成に関して和田崇子先生が参加され、最近では富恵博先生の参加を得ている。

協会では平成 11 年（1999）から会長となったが、これも大した役にも立たず、徒に第二次山口国体に向けての取り組みを一人勝手に思い思い慨嘆している。

そして、母校山口高校の花園への道は厳しいながら、OB の重富克美君には絶大な援助をもらっていた。そのためにも、重富克美君の急逝は残念でならない。重富克美君の密葬に際してはご遺族のご理解をいただいて、山高ラグビー部の背

番号 2 番のタイガー
ジャージのユニホー
ムをお棺に入れさせ
てもらった。

ラグビー馬鹿一代記
の終わりにあたり、昨
年春には関西ドクター
チームを迎えて山口
大学医学部チームの交
流試合にかかわったこ
と、今年 4 月末には
第 42 回九州・山口医
科学生体育大会（ラグ
ビー部門）が山大主管
で、阿知須きらら運動
公園で開催された。県
ラグビー協会会長とし

てより OB の一人として挨拶させてもらったこと
は、この上もないことであった。その上に長崎大
学が 19 対 5 で九大を破って優勝したことは、長
いラグビー人生に華をもらったとも思っている。

さらに、最近まで会報委員のご理解のもと、他



途中経過の一齣

愛ないと思われるでしょうが動きのあるラグビー
関係の写真の数々を会報の表紙に掲載させていた
だいたことはラグビー馬鹿の冥利につきると感謝
して終わります。

ロッキー山中にて

阿武 原 晴朗

ロッキーの夏雲明るくし月浮べ

ロッキーの夏月淡くし漂ふ

ロッキー山脈寫す湖面は夏の國

天使の山天國の人ロッキーは夏

ツリーラインは天地の境夏の山

氷河の中夏雲の蒼たゞそれのみ

雲流る嶺々に尚もみじせす

山綾は緑雲悠々と秋流す

顔の齡隠して廻す秋日傘

病めども病めども甦りし女秋空に

故本庶正一氏の思い出

岩国 藤本 典男

私が彼と初めて会ったのは平生町の光輝病院であった。理事長の重富氏は七重の腰を八重に折って、院長に懇願したと紹介した。背の高い、むつかしい顔の大男であった。彼は体を前後に揺らしながら、就任の挨拶をしたが、何を言ったか余り覚えていない。その威圧的な風貌が私を圧倒したのであった。…しかし、皮膚科の一勤務医と院長ではほとんど関係はなく、私たちは挨拶を交わすこともなく、山の上の病院で静かに過ごした。しばらくして、何かの折に院長室に呼び出され、ひどく怒鳴られた。皮膚のカイカイ病がよくなるのではないか、というようなことだった。その言い方が尋常ではなかった。私は怒りがこみあげて、院長の胸倉を掴んで殴ってやろうかと一瞬思った。しかし、それもできず不条理な怒りと興奮がその後数十日にわたって続いた。… カイカイ病というのは疥癬のことである。それで原稿用紙 20 数枚くらいの「疥癬のお話」という小冊子を書いて、数か月後に渡した。彼は何の感想も述べなかったが、その後怒ることはなかった。この小冊子は今もしかるべき施設で使われていると聞いている。…

本庶氏は昭和 13 年岡山大学を卒業している。同級生に山陽荘の名誉院長である八塚陽一氏の名がある。すでに同級生の 3 分の 2 は他界している。彼は卒業と同時に京大耳鼻科星野教授の門下生となり、さらに数年後大学院生となり、若垂奨学金を与えられているから、頑張り屋で、優秀な学徒だったのだろう。昭和 25 年には山口県立医科大学の教授となっている（本庶正一先生追悼記による）。

Today's rooster, tomorrow's feather duster という中国の諺があるが、私が出会った昭和 60 年ごろの彼は学者という感じはなく、スポーツ好き

な、狷介な性格の元気な老人という印象であった。私は 50 歳を過ぎていて、高血圧とデプレッションに苦しみ、スポーツは一切やらなかった。氏はゴルフを週 1～2 回はやり、テニスもやると言う。私の目から見れば、100 歳位までは生きるだろう、超健康優良人間であった。彼は一度も身体の不調を訴えることはなく、何かを精力的にやっているように見えた。例えば、検査室の組織標本係の若い職員に言われると彼は標本にも目を通していて、診断をしたがっている風だとのこと。診断用語でインシチューという言葉インサイチューと米国風に氏は言い、その発音が正しいのではないかと私に告げた。これは少々ややこしくなったな、と私は思ったが、宮仕えの身だから、できるだけ静かに務めることとした。韓国からきていた李先生、玖珂中央病院から来た西村女先生と 3 人で、病院の車で送迎されながら、院長の逆鱗に触れることもなく、2・3 年が過ぎていった。…病棟を仕切って外来になっていた 2 階の 1 か所で、私は外来に来られる患者の診療を行っていた。割と壁が広く、隣の部屋も空いていたので、私は貯めていた油絵の展示会をやってみた。20 枚ばかり。主として風景画だが、自画像などもあった。それを見に来た本庶氏はおまえが済んだら、今度は私のをやらせろ、と言われた。まもなくはずしますからどうぞ、と私は言った。彼の絵も 10 点以上あり、それが全部女性の肖像画であった。私の絵より、タッチがやわらかく、ムウドがあり、上手であった。大きさは 2～8 号くらいの小品であるが、一見マリーローランサンを思わすものであった。サマセットモームが居間にローランサンの絵を飾り、ドンペリーニョンを飲むのが至福の時であると言っているが、私も彼の絵を 1 枚もらい、書斎の壁にかけてみたい思いがしたが、こ

の上司に向って切り出すことはできなかった。…しかし、この絵を観てから、氏に対する見方が変わったのは事実である。彼も根の部分はロマンチストなのだ。…大学から来た内科の若い医者と一緒に私も漢方薬を使い始めて、しばらくした頃本庶氏は彼の祖父が富山の薬売り（もちろん漢方薬である）の品質の目ききをしていて名人だったことを少々自慢そうに話した事があった。おそらく、そのおじいさんに腕白な本庶少年は可愛がられたのであろう、ことが、その言葉の端に想像された。彼の話し方はぶっきらぼうなので、こちらが補って考えないと真相は見えてこないのである…。

本庶氏が看護学校の学院長になり、私の後輩の外科の連中が院長や副院長などになって、病院の穏やかな雰囲気は変わり、アグレッシブなものに変わった。私も、いつまでも務められる状況ではなくなって、開業を決意した。…昭和 60 年ごろのある日、銀行のお偉いさんと会い、500 万円の借金を申し込んだ。相手は 1 桁金額が違うのではないかといった。ともかく、岩国の南駅の近く、整骨院の 2 階でオフィスを開くことができた。不便な 2 階にも拘わらず、えらい数の患者さんがやってきた。その忙しい時に氏は 1 か月おきぐらいに 2 度も訪れてくれた。例によって、特に言葉はなかったがあの巨体を 2 階まで運んで私の顔を見て行った。私の方も、それに答える形で、看護学院の講師として 2 回平生町まで行った。病院を辞することを決めていたので、学院の講師は辞退したのだが、お前の履歴は申し分がなく、学院を創るにはぜひ必要だといわれ、名義を借した積りでいたのだが。…2 時間の講義はなかなか、しんどいものであった。彼は人の経歴を重視するところがあった。

彼は昭和 30 年頃、米国やカナダへ 2 年以上も留学した経歴を持っている。しかしながら、欧米風の柔らかい、相手を納得させる、言葉の使い方は学ばなかったようである。…こういった日米の表現の仕方について、早稲田大学の英語と知的コミュニケーションの講師をしている、ケートエルウッドは部下や学生を叱る場合や非難する場合、対決的、対立的にならないように欧米では言葉を使っているとしている。それに対し、日本人の話し言葉の表現は権威的、横柄で、ごう慢だ

としている。(The Daily Yomiuri, May 27, 2003. The language connection, why are you so bossy?) これは多民族国家では相手を納得させるのに上手に言葉を使わなければならないという歴史があり、一方日本では長い封建社会の言語習慣があり、トップダウン形式の命令的表現でこと足りた結果であろう。

氏は典型的な日本の言語習慣の伝承者であった。私も妻にしばしばその点を指摘され、基本的には彼と変わらないことに苦笑する。経済のグローバル化はいやでも起こっているが、人間のほうも徐々にグローバル化があり、私も時に英語で診療をやり、中国語の必要性も感じる、この頃である。…

本庶氏と最後に会ったのは平成 9 年の春だった。岡山大学同窓会が柳井であり、私たちは長いテーブルを囲って坐り、食事会をした。氏は斜めに向かいに居たが、どうも普通の状態ではなかった。むつかしい顔がさらにこわばっていて、苦痛に耐えているかのように見えた。話しの合間にも笑顔はなかった。私たちは言葉を交わすこともなく分かれた。年が改まって、平生町の学院の職員たちだった人から年賀状をもらった。その中に本庶氏がなくなって淋しくなったという意味のことが記されていた。私は愕然とした。あっと声が思わず出た。後で、前立腺がんとその転移による死因を聞いて、春の同窓会の時の彼の顔を思い浮かべた。…氏は我慢強い男だった。不平や不満、愚痴などというものを他人に言わなかった。氏は古い日本男児の典型だと思う。頑張り屋で、忍耐力があり、そして叱り方や話し言葉によるコミュニケーションの下手な人であった。…

京都にお住まいの奥様に電話で彼の墓所を尋ねた所、彼の墓は富山とのことだった。昨年話である。…腕白で、見所のあった孫を愛したおじいさんと、おそらく同じ所に眠っているのではないかとわたしは想像する。…人は愛によって生き、死しても何らかの形で人の心に愛の灯をつけて生き続ける、少しともその故人を覚えている限りは。…

北上展勝地公園の桜と名木石割桜

下関 織田 登

本年 4 月 22 日(火)北上展勝地の桜見物に出かけた。筆者が北上展勝地の桜を知ったのは 2 ～ 3 年前角館の武家屋敷の枝垂桜と桧木内川土堤のソメイヨシノを見学し、秋田から男鹿半島へ足を延ばした折、車中で、北上市から秋田へ嫁入りしたという婦人から展勝地の桜の素晴らしさを聞かされ一度訪ねてみたいと思っていた。

東北の三大桜の群落といえば前記角館と、弘前城跡と、この北上市といわれる。前の 2 か所は見学済みなもので、最後の仕上げのつもりもあった。

4 月 23 日(水)朝、東京駅についた。車中で天候が曇りとのニュースを見たのでちょっと予定を変更することにして盛岡地方裁判所に電話をした。ご存知"石割桜"の開花状況を尋ねるために。

満開です、天候は曇りですが、との返事で北上駅下車をやめて盛岡駅まで飛ばし、車で裁判所にかけつけた。満開の石割桜が見事な姿を見せてくれた。幸運だった。

樹齢約 350 年のエドヒガンの老木の春爛漫のあで姿だ。ここはかつては盛岡藩主南部家の家老北九兵衛の屋敷があったという。なんでも庭石の花崗岩が落雷で割れ、その割れ目に桜の種が飛んできて芽を出し、成長とともに石の割れ目を押し広げていったもの、と言われている。

大正 12 年、国の天然記念物に指定され、市民に愛され続け、今では幹の周囲 4、6 米、樹高 10.6 米、枝の張りが 17 米という見事な大木に成長し、盛岡の街の移り変わりを見守り続けて今日に至っており、石の割れ目の中での成長が、この桜に類稀な風格をもたらししている。

庭師達に見守られながら毎年盛岡市民の目を楽しませている。以前来た折には開花が十分でなくて残念に思っていたので、今年満開の姿をみて十

分満足した。

話では昭和 7 年に裁判所が火災になって、石割桜が危機一髪の時、庭師藤村治太郎翁が身につけていた半てんを水で濡らし、濡れた石で足を滑らせ口を切るケガをしながらも石割桜を守ったというエピソードがあるそうだが、石割桜は周囲の人の温かい思いで見守られている。

かねてからの念願を偶然にはたせて気分もすっきりした。少しおそい昼食をとり、北上市へ引返した。予約してある宿にゆき疲れをとるため入浴して、ひと眠りして夕食を食べに街へ出た。

4 月 24 日(木)早目に起床、テレビの天気予報は曇のち晴と出た。

朝食を済ませ、おにぎり弁当をもらって車を頼んで展勝地公園に向う。空はもう結構青空が広がり十分に陽がさしている。北上川にかかる珊瑚橋を渡って展勝地公園の中心部レストハウス付近で下車し、そばにある北上川より観桜する遊覧船の発着場に行く。

8 ～ 10 人集まると出航する。川幅は約 150 米、溜場から出た船は桜並木のある土堤よりを進む。右手に桜並木が姿を見せ始める。名前は分からないが青々とした樹林と桜のピンク色とのコントラストが美しい。スピードは少し落とし気味で満開の観桜を楽しませてくれる。桜の並木はえんえんと 2 km ほどつづく

桜並木が終わりになって来たところで反轉、引き返す。帰路は反対側の岸よりに航路をとる。はるか前方には冠雪の奥羽山系の山山が姿を見せ空には青空が拡がり、桜と水と三位一体を越えるアトモスフェアをかもし出す。40 分ほどの船遊びを終え上陸する。いい気分だ。

下船して今度は観光用のトテ馬車に乗り、空を



北上川の遊覧船より見た、北上展勝池の見事な桜並木

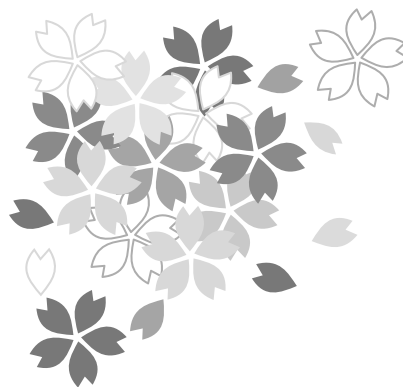
覆い尽くさんばかりの満開のソメイヨシノの並木を約 20 分ほどテコテコと散策しながらすすむ。水上からと桜のトンネルからの申し分のない観桜だった。

ちなみに「展勝地」については大正 9 年 (1920) 元黒沢尻町長の故沢藤幸治氏が桜の植樹でこの地を空前の桜の名所にしよう、小地方的な景勝地にとどまってしまうことなく、国家的名勝にしようと「和賀展勝地」を設立し、三好学東京帝大教授と井上清枝師の指揮と設計のもと、桜の植栽事業を行って翌 10 年に開園、北上川の洪水など被害に見舞われたが、75 年余りの間地域住民の熱意に支えられ、今のような見事な桜の名所となったという。

展勝地の由来は沢藤氏の親友風見章氏 (第一次近衛内閣の書記官長) が事業団体の名称を「展勝会」と命名したことと、近くにある陣の丘からの眺めが素晴らしいことから展望のきいた名勝、景勝の地という意味で名づけられたことか。公園の敷地約 293ha、同一種を単に植えるものでなく、各種の桜を植える、をモットーに只今ソメイヨシノやベニヤマザクラなど栽培種、野生種計 150 種、約 1 万本の桜が咲き競う東北の桜の新名所として名乗りをあげた。北上市では桜の植樹だけではなく、桜は常緑樹の背景によって一層その美を発揮するので、計画的に赤松などの樹木も育成した。

たぶん北上市のこのような意気込みなら遠からず国家的名勝の名を勝ち取るのは夢ではなさそうだ。なお北上市は岩手県第 2 の市で市名はもちろん北上川にちなみ、1954 年 (昭和 29 年) 4 月 1 日、黒沢尻町と飯豊、二子、更木、鬼柳、相去、福岡の 6 村が合併して市制施行、91 年 (平成三年) 和賀町、江釣子村を合併、中心商店街黒沢尻はかつて北上川水運最大の河港であり、奥州街道の宿駅、商都として栄えた。人口 87,970 人。

たまたま運良く見学できた名木石割桜と、1 万本の各種桜が埋めつくす北上展勝地の桜の名勝と、今年は春から縁起がいい。(文献等省略)



新 樹

山口 国近 満男

○城公園

最近、毎年 5 月連休の時期に休日当番医に当たっていたが、やっと今年は 6 月になったので久しぶりに旅行を考えた。しかしイラク戦争、デフレ不況、不良債権、患者負担増等の社会不安のところへ、さらに SARS 新型肺炎が中国を中心に発生し、患者数、死亡数が日に日に増加し深刻な社会問題となってきた。外国旅行はパニック状態なので国内各地のイベントはどこも超満員が予想された。孫の誕生日のショッピングもあり、近くの小倉となった。

松本清張記念館のことは知ってはいたが、そこまでは足を延ばせないままになっていた。ゴールデンウィークにふさわしい五月晴れの天候になったので、家内と落ち合う場所と時間を決めて小倉城周辺の散策を楽しむことにした。

小倉城の外堀は、鬱蒼と茂った緑豊かな樹木に囲まれ、威厳と貫禄があった。堀内の池には鯉が泳いでおり、豪壮な大堀の周辺は、赤白のさつきも咲き見事であり風情に富んでいる。ゆっくりとした足どりで大堀を過ぎるとそこに記念館の玄関があった。記念館は広範囲な創作活動を体系的に理解できるように、ビジュアルな方法で解説紹介し、書斎、書庫等の仕事の域を再現展示してある。氏は経済的に恵まれなかった幼少期より小学校卒で給仕をふりだしに広告版下の下請けから新聞の広告部に勤務するまでの苦闘の数々。書店で立ち読みから始まった文学への夢がつのり、やがて小説を書き始めた。57 年発売の「点と線」がベストセラーになり、大作家への道を歩んだ。私が清張氏に心ひかれたのは、その



苦難の半生記に感心したからである。広い館内をくまなく歩き、ゆっくり観照した。社会派推理小説という新分野を開き、さらに歴史小説、古代、現代史研究などその創作活動は多岐にわたり、そのエネルギーと情熱には驚かされるものがあった。記念館の外に出ると、そこは小倉城公園で茂った樹木も新緑の装いがあり、春蟬のなき声も聞こえ爽やかであった。少し歩くと目の前に堂々とした天守閣がそびえ立っていた。小倉城は慶長 7

年(1602 年)細川忠興公が築城した名城である。当時は「唐造り」とも呼ばれ、全国でも珍しいものであった由。以後永い時代の変遷の紆余曲折により焼失していた。現在の城は、昭和 34 年(1959 年)に在りし日の名城を再建したものである。久し振りに各階の歴史や文化のゾーンをみて廻り、5 階の展望ゾーンから小倉の町の東西南北 360 度の大パ

ノラマを満喫した。記念の土産を買い日本茶で喉を潤し休憩した。この後、小倉城庭園、紫川周辺を散策していると、観光客にまじって、新樹の中をジョギングや散策の人々に出会った。山口市でもパークロード、後河原、榎野川周辺の山口秋吉台サイクリング遊歩道の光景と同じである。行き交う人々を見ていると、人生は厳しい面もあるが一期一会のご縁を大切にすれば、人の世は旅は道連れ世は情けであるとしみじみ思っていた。

○青春

ここ小倉周辺では、友人・後輩が元気に病院勤務や開業をしており、同門第二内科の飛翔会のメンバーが多数大活躍しているニュースを聞き大変

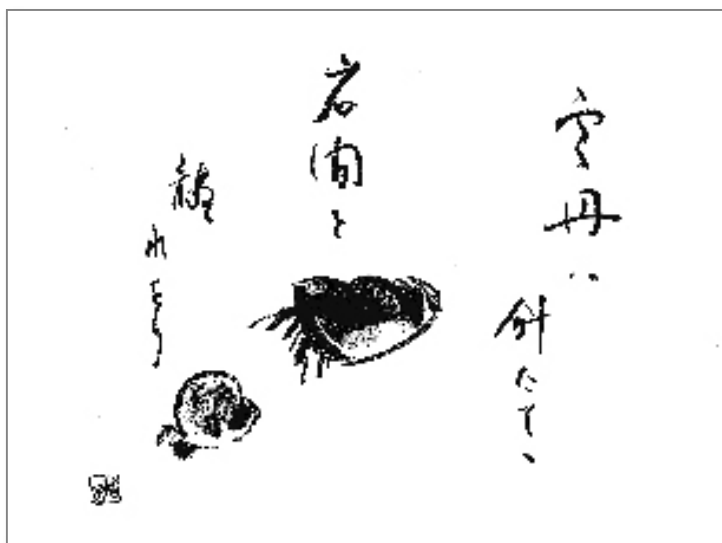
うれしく思っている。この地区には学生時代の懐かしい友人との思い出もある。それは Y 君のことである。Y 君と卒業記念に、門司港・門司・小倉地区のささやかな小さな旅であった。それは春潮の海岸や水ぬるむ紫川のほとりの風光る春の散策であった。Y 君は原爆被災に寄る長崎からの転入学生であった。受講席が近くであったので、何かと声をかけ合っていた。当時は戦災による復興が遅れており、食料住宅事情が厳しい状態であった。その後、Y 君よりぜひにと同宿を懇願され、大屋さんにやっとのことで許可をいただいた。丁度その頃、私の下宿の前の家の離れに S 君が入居してきた。S・Y 君ともに頭脳明晰で成績は優秀であった。その上 S 君は義侠心が強く、Y 君はユーモアがあり、共に学生仲間には人気があった。S 君は読書家であり社会学で教えられることが多かった。Y 君は実家が原爆で被災し、被害甚大で生活にも困窮していたが、つとめて明るい表情をつくらっていた。私の実家も戦時中の冬に父が亡くなっていた。兄弟で力を合わせ復興に努力していたので、なんとかやりくりができる状態であった。そのような二人とも経済的に苦しい事情の中、Y 君は被爆していたので健康状態には特に心配りをし、栄養の補給に落度がないよう助け合って卒業までの一年半を無事にのり越えることができた。…その後それぞれ山口・長崎での病院実地研修のインターンを終了し国家試験に合格した。しばらくの間文通があったがその後途絶えたままになっていたとき、訃報のニュースが入った。過ぐ

る年長崎大学医学部を訪ねて、偶然に被爆 50 年誌を知り読ませていただいた。その中に Y 君と同クラスの N 氏が運命の日の出会いを記しておられる。被爆当日、Y 君と一緒に皮膚科外来のポリクリに就いていると、まったく突然、窓辺に青白い閃光と同時に強烈な床がひっくり返るようなショックと爆風を感じすぐに床に伏せた。病院が一瞬のうちにバリケードのようになり、やっとのことで Y 君と出会ったが、お互いに頭・顔からかなりの出血があった。廃墟となった病院から脱出すると、見渡す限りノッペラボウになっていた。中略。その後貧血、白血球減少のためフラフラがつづき、3 年有余の間原爆症の闘病生活がつづいた。…と述懐しておられる。Y 君の被爆も高度で、闘病に懸命であった友人を偲び瞑想した。

○○○○○○○○

家内と落ち合い、贈り物のあれこれを選びショッピングを楽しみ夕方帰山した。その日は山口大学・医学部・工学部合同の管弦楽演奏会が市民会館大ホールで開かれており、知人の家族が出演していたので出席した。第二部の合同演奏には間に合い十川真弓指揮によるブラームスの交響曲を堪能した。私の心は学生の青春時代に戻り、オーケストラの奏でる心地よい旋律のリズムに感動を覚え、若い元気なエネルギーをいただいた。山口大学の発展を祈り乍ら…。

すがすがしおもいで若き城新樹 満 男



北欧で老人福祉を学ぶ

徳山 姫野 英雄

人生の終わりに近づきましたが、まだまだ私なりに視野を拡げたいと思っています。私は戦後の混乱期、物も金も少い時期に結婚しました。新婚旅行もできないまま、家内とともに苦労の連続でした。京都大学で研究生活、山口医大で教鞭、徳山中央病院勤務の後、徳山で開院、医師会活動、教育委員、各種委員を務め、家庭をよそに出歩るき、家内を心配させました。その後長い月日が移り、次男がフロリダ中部、メキシコ湾岸、セントピータースバーグ市、南フロリダ大学医学研究所で世界的な医学者、ロバート A グッド先生に師事、肝臓病研究のため、一家で移住していたので、平成 2 年正月、懸案の新婚旅行を兼ねて、フロリダ行きを決意しました。アトランタに降下し、南北戦争当時のメモリアル・タウン観光、マイアミ、エバースグレー、さらに 42 の珊瑚礁の島々を通してキーウエストでは米州最南端の碑の前で記念撮影して、テレホンカードを作りました。猫の群がる、ヘミングウェイホームを訪れ、たまたまお正月でしたのでニューヨーク、ワシントン等、北部人の大移動と一日中長椅子に寝そべって過す、米人氣質を実感しました。孫とともに公園で遊び、ディズニーワールドで過したことも楽しい記憶です。始めての家内との海外旅行は他界したことで終わりましたが、外遊はその後の寂しさをまぎらす、手段とな

りました。その頃山口放送の善行者表彰を受け、その年度の方々とはじめてヨーロッパの旅に連れて行っていただきました。成田発ソ連上空を通過、英ヒースロー空港に降り、テムズ河畔に妹と佇んだこと、伊ではボンベいの廃墟、独ではライン下り、船着き場、ドロツセルガッセ風景、ドイツワイン。ここは日本名で「ツグミ横丁」と称する坂がありいまだに毎年、「ツグミ会」を開いています。スイスアルプスでは登山電車で一気に九合目まで登りましたが高山病を体感。アルプスでは珍しいという晴れた日でした。ジュネーブから高速で仏へ。セーヌ河、ルーブル美術館。述べたいことは山程ありますが、先を急ぎます。その後、テキサス二回、カナダ、ナイアガラ、ハワイ、中国 2 回。マダガスカル島、オーストラリアと体験。北欧にはぜひ行って見たいと思うようになりました。単なる観光旅行ではなく、その土地にじっくり腰をおろして、ゆっくり、風土にひたりたいと思っていた矢先の折、私の机の上にスウェーデン福祉研究所の案内書が置かれていました。福祉国家

スウェーデンで最先端の痴呆症ケアを学ぶチャンスですと記されていました。私は昨年より、老人保健施設ゆのの里の施設長として勤務させていただいていますがこの方面の知識はまったく一年生です。深く勉強して見たいと思って



ストックホルム市
市長にメッセージ贈呈

いたので早速、理事長都野治男先生の許可をいただき、秋本啓輔、藤井和弘両事務長の了解も受け、参加することに決めました。また折角遠い国に行く訳ですので周南市市長のメッセージをストックホルム市市長にお届けし、併せて先方のライオンズクラブ会長にお逢いしたいと思っていましたが、すべて都合良く運び友好の実も得ることができました。森と湖の国、スウェーデンの価値と、住民の友好ムード、北欧五か国の中央に位置して、思ったように素晴らしい国でありました。老人福祉についても短時日ではありましたが毎

日早朝より夕刻までエーシュタ・ションダール大学で熱心な多くの講師の授業を受け、修了証書もいただきました。何れ発表したく思っています。スウェーデン福祉研究所、代表取締役、ビョルン



授業風景

氏、マネージャー、グスタク氏、イヤミル氏に大変お世話になり、新しい友人達もできました。全員で乗った、ディナークルーズ。特注のノーベルディナーは最高でした。



高本 公 書

ファドの一夜

下関 江藤 澄哉

昨年の 5 月にリスボンに 6 泊してその魅力を堪能した。

旅の目的は 2 年前に産業医科大学第一内科退職を機に、40 年振りに里帰りしてからの下関での超多忙な日常生活からしばし解放され、苦勞をかけっぱなしだった奥さん孝行も兼ねて、リスボンで開催された国際骨粗鬆症学会への出席と観光にあった。その時に綴った「リスボン紀行」から楽しい思い出の最後をかざったファドの一夜を抜粋してご紹介したい。

5 月 13 日（月）

最後の一日は朝早くからリスボン市街 2 度目の観光に当てる。深夜まで充実した一日になりそうである。この 6 日間を振り返ると、学会参加は添え物となったが、まあよいか。

中略

夕方近くになって、中心街からやや西側のベレン地区にある彼の有名な「発見のモニュメント」を訪ねた。エンリケ航海王子の死後 500 年を偲んで建てられたベージュ色の大理石造りの記念碑である。高さ 52m の帆船の先端にエンリケ航海王子が誇らしげに立ち、その後にパスコ・ダ・ガマらの偉人が折り重なるように続く。夕映えをバックに見るモニュメントはどの角度からみても感動的でさえあった。ホテルに帰ってシャワーを浴びて小休止し終わった頃にはすでに 9 時を過ぎていた。これから、まだ、楽しい締めが待っている。それにしても旅に出るとどうして二人ともこんなにタフになれるのだろう。

最後の夜は、何か月も前から期待していたファドを楽しむことにした。ファドとは辛い別れ、友情などの哀切と情緒に満ちた、どちらかと言うと

暗い感じのポルトガル民謡である。伴奏はギターラ（円形の胴体で音色はマンドリン様）とピオーラ（6 弦のギター）。一説によると、ブラジル音楽のモディーニヤやルンドーがポルトガルに伝わり、19 世紀前半にリスボンでファドとして生まれ変わったとのことである。大学生の頃、「暗いはしけ」というフランス映画を新宿の場末で観たことがあり、その中で、ファドの女王、アマリア・ロドリゲスが歌った低音の単詞なリズムには鮮烈な印象が残っており、今でも口ずさむことができる。

さて、一度、ケーブルカーで上がったことのある寂れたたたずまいのバイロ・アルト地区の観光ずれしてないお店と評判のカント・ド・カモンエスを目指す。タクシーは店の前まで行ってくれず、この近くと言って降ろされた。周りを見渡せどもそれらしい看板はない。とある角の家の 2 階から我々の方をのぞき見していたお婆さんに大きな声でカント・ド・カモンエスと何度もどなると、方向を指さしてくれた。しかし、地図の具合では逆を指しているようなのでそれは無視して、同じく通りの角のレストランの主らしき人に開くも英語は通じず、どうも要嶺を得ない。そうこうしている内に、その主と立ち話をしていた、ネクタイをつけてやけに派手な茶色のチェック柄のカジュアルジャケットに身を包んだ二人の中年の紳士が自分達もその店に行くから着いて来いと所作をした。不安もあったが、ままよと後が続くとかなり離れたところに目的の粗末な看板が見つかりほっとする。

ファドの店にしては 9 時半というのは早過ぎのようで、われわれが最初の客。ボーイさんが気さくな人で、気持ち良く迎えてくれた。料理の付き出しが、たこのぶつ切りをオリーブオイルとオ

レガノという薬味で煮付けたものとタラの卵寄せ風で、見かけは不気味だったが味は一流。食事は本格的なポルトガル料理で、私には日本でいうすずきに似た魚のバター炒めが出てきたが、例によって 3 人前はある。奥方の料理は難し過ぎて名前も見かけも忘れた。珍しく生ビールがあると言うので、それでのどの乾きを癒したあとは、ポルトガルの白ワインを注文する。戦後に流行った甘ったるい赤玉ポートワインと違ってさっぱりとした味である。さて、部屋が薄暗くなってファドの始まり。60 歳位の軽く背中曲がった小柄な男性が黒っぽい背広とネクタイで現れた。それと同時に出てきた伴奏のマンドリン（正確にはギターラ）奏者とギター奏者を見てびっくり仰天。何と先ほど、私たちをお店に先導した紳士達ではないか。われわれを見てにやりと笑い、われわれは軽く会釈を返す。まだ、お客は 2 人だけだったので専ら、こちらに語りかけるように歌い出す。貸し切り演奏会の気分で満足する。歌は切々として、暗く沈み、正にファドである。ワンステージが終わる頃までには 2 ～ 3 組の客が入ってきた。歌声は今ひとつで元ファディスト・スターというところか。3 曲ほど歌ったところで明るくなり、われわれの所に来たので最初の客への挨拶かと思ったところがさにあらず。手には何校かの CD を持って商売に来た訳である。写真も若かりし頃のものである。15 ユーロということでポルトガルにしては高価と思ったが、記念にと買ってあげる。

しばらく食事を楽しんでいると、再度、ライトダウンとなり、今度は黒装束の上から大きな黒いショールを羽織った（これが女性ファド歌手の定番衣装、正に「暗いはしけ」で見た通りである）、同じくかなりお年を召した女性歌手が現れる。静かに聞き入るには余りに間近すぎて、たまたま耳を押さえて聴いてみると高音部のハイピッチな雑音が消え、エコーが入ったようで丁度よい聴き加減であった。ついでに申し訳ないが、しわだらけのおばさんなので声だけ聴いて目もつむるとファドの哀切感が強く伝わってきた。男性歌手と同様に明るくなると商売の開始。この頃にはグループ観光客も入って客も増えていたが、買ってあげる人が無く、気の毒になり、お買い上げとする。前

の CD と同じく、目の前にいる婦人と同一人物とは到底思えぬ全盛期の顔が見られた。おそらく、音色も一段と違うはずだがまだ聴くチャンスがない。

途中で入って来たグループ観光客から聞こえてくる言葉は英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語ありで不思議に思ってボーイさんに訊ねたところ、英国の会社の研修旅行とのことであった。若いグループとあってワインの飲みっぷりも豪快そのもの。興が乗るほどに、特にイタリア人らしい女性グループが大きな身振り、手振りで喋りまくっている。ポルトガルに入って初めて見た知的でしかも美人揃いだった（正直なところ、混血民族としては珍しくポルトガル人には感じのよい人はいても美人は見られなかった）ので一向に不愉快にはならなかった。不思議なことに、いったん、ファドが始まるとぴたりとおしゃべりを止め、静かに聴き入っていた。これがファドを聴く時の礼儀作法である。明るくなる度に元の喧噪に戻るのが面白かった。引き上げ時を失ってまごまごしているうちに、2 人だけ取り残される格好となった。思い切ってお勘定と言うと今からステージが始まるので、もう一度、聴いてから帰ってくれとボーイさんに言われ、席を立つ勇気がなく数度目のステージに付き合ったあと、タクシーを呼んでもらう。夜が遅いのでタクシーは狭い路地の店の前まで呼んでくれることになり、チップをはずむ。ホテルに帰り着いたのは午前 1 時過ぎ。一生分のファドを満喫した気分で、早朝からの疲れも忘れて心地よい眠りについた。



今昔物語

下関 塩見 祐一

○鉄人 3.0 キロ

今は昔、少年雑誌の中でナンバー 2（1 にはあらず）のヒーローは、漫画では鉄人 28 号そしてプロレスでは鉄人ルー・テーズだったが、それとは無関係の話し。天草の K 病院で午後の当番をしていると、中年のムツケキ男、便秘を主訴としての受診ありけり。確かにここ 3 日間便が出てないことを除き、自・他覚所見もないのでグリセリン浣腸のみを施行。するとトイレで出るわ出るわ、スッキリしたと。そこで、成果を見るため体重計に乗ってもらくと、なんと 3kg の減！ まさに鉄のウ〇〇であったと聞く。

○表面張力

今は昔、沖縄の Y 村診療所で働いていた時のこと。チュラカーギーで首里出身（沖縄における山の手か？）の H 検査技師が「先生！ ちょっと見に来てください」とヒステリックに診察室へ入ってきた。検査室に行くと指差された検体を見ると、何と表面張力でやっと保たれている量の尿が、コップから今まさにコボレンとする or はたまたアフレンばかり。「これをトイレからどうやって持って来たんでしょうネ？」。後日、その“犯人”の村職員に聞いただと「彼女、美人で武士の出っというのを鼻にかけているでしょ！」と。今ならセクハラなのだが、何分 23 年前のことと聞く。

○ガス分析

今は昔、僕の出身の S 病院で、出張健診から帰って食堂に行こうとしていた時、事務職員に呼び止められることあり。その男、神妙に「ガス分析をしたいから容器をください」と。僕「それなら、何も要りませんヨ、動脈だから痛いけどネ」。相手は怪訝な顔をしているので、「どうしてそん

な検査を？」と聞くと、答えていわく「最近、ガスが臭いんです」と。そういえば太平洋戦争時、軍医は操縦士にとっていかなる食事が適当か、ジューと、飛行機の操縦席の後でフクロを捧げて研究をしたと聞く。

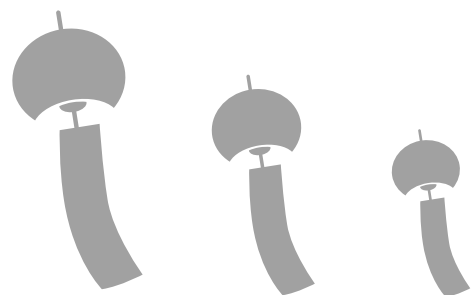
○生一本（黄二本）！

今は昔、我が市において大腸がん検診が保健所から僕たち個人立診療所でもできるようになった時のこと。S さんに 2 本のうちの 1 本を手渡し、「僕の言う通りにしてください」と詳しく採便方法を説明したつもりだった。2 日後「難しいものですね」と机の前に出された。提出袋が何か汚いと言うかベトベト付いているよう。僕「S さん、ちゃんと採れたでしょうネ？」。S さん「ハイ、言われたように、渡された棒をお便（ていねい言葉？）にヌスクリましたが、なかなか付かないのでスクッチ取りました」。なるほど、その物ズボッだから、こうなんだ！と眼前の検体を見る僕であったと聞く。

春過ぎて夏来にけらし

老人の衣脱ぐ間の短くなりぬ

読人しらず



将来の社会福祉と医療保険制度にネオコンと 絡まる日本政府と日本経団連の相互関係を考察

宇部 山本 一男

{ネオコンって知てる?} 《「ゼネコン」・「パソコン」なら知ってるが、知らないねー》。

前回は {アメリカの医療保険制度に関して} を書かせていただきましたが、今回は日本の国や日本の今後の福祉制度や医療保険制度に関して、この「ネオコン」との係わりも踏まえて記載してみましょう。

まず、この「ネオコン」とは何でしょうか？ 正式名称は「ネオ・コンサバティズム」と言い、「保守主義（米国）」に対して「新保守主義」と言われる思想です。この思想は「米国流の価値観に沿って、民主主義と経済自由主義を世界に広め、世界を創り直す考えで、そのためには武力行使も辞さない。それは超大国としての歴史的な使命なのだ」と主張をするものです。現実には「イラク」戦争で実証済みです。この思想の詳細な内容については別の機会に述べるとし、日本がこの思想に知らず知らずのうちに巻き込まれている事実もまた、直視してみたい。そして、現政府・日本国民はこの思想と親密化させられつつあることも（財界・大企業も含めて）。

安保、沖縄基地、有事法制、教育などに関しても、国内問題と米国の {ネオコン} との係わりは非常に緊密な関係にあります。例えば、G8 首脳会議にも見られますが、写真に写る位置は中央が、フランスのシラクか、アメリカのブッシュ。次いで、イギリスのブレアやドイツのシュレーダーかロシアのプーチンが占めています。日本のこの度の小泉首相はいずれも端に位置しています。長期就任と短期就任の期間の差が歴然と現れています。国の威厳の差は明白です。しかし、ブッシュにいつも寄り添われ、ボンと背中を叩かれ悦にいつているのは何時も日本の首相です。あしらわれている国際関係は又の機会に譲るとして重要なことは経

済財政と社会福祉並びに保険医療問題です。

日本の経済不況はいつまで続くのでしょうか。回復のめどはまったくついていません。りそな銀行へ国民の尊い血税を惜しみも無く 2 兆円もの公的資金投入はまったく無知でナンセンスと私は思います。だが、米国の対応は何と表現すればよいのでしょうか。スノー米国財政長官はべた褒めをしています。「TAKENAKA、勇気をありがとう。小泉政権の金融安定化の行動に特に励まされた。このような不良債権処理は有益なモデルケースとなるだろう。竹中担当相の指揮下での金融庁の仕事ぶりにも勇気づけられた。さらに、日銀のデフレ収束に向けた強力な金融緩和に高い期待を持つ」と述べています。経済財政面でもアメリカの言いなりになる日本政府を煽て、権威を誇示しています。

もう一方で日本政府と自由民主党の政権政党に強力な圧力を「金」の力も加えて強引にかけつつある組織があります。それは「日本経済団体連合会 {会長：豊田 碩}」です。今回はこの団体の特に社会福祉・医療改革と財政的改革に絞って述べてみます。（前回掲載させていただいた、「日本の保険医療制度は今後どのようになるのでしょうか。山口県医師会報：緑陰随筆 1618 号、583～586 頁、平成 13 年 8 月 11 日」を参照されるときさらに良く理解できます）。

まず、経済財政問題に関してです。日本経済団体連合会は“政治献金再開を宣言”しました。豊田 碩会長は「口を出すために金を出す」と公表しました。これを受けて早速「政治献金緩和策」が国会の審議で始まりました。経団連の目的は明白です。財界・大企業に有利な税制改定と規制緩和を政党に行うようにさせる内容です。多大の貢献をした政党・個人には多くの献金をランク付け

して与える方針です。最大の「優先政策事項」は税制制度で「大企業にはまったく痛みをともなわない消費税率の大幅な引き上げ。そして企業には有利な企業税率の高率な引下げ」です。

では、{活力と魅力溢れる日本をめざして - 日本経済団体連合会新ビジョン -} のポイントのみですが見てみましょう（詳細を知りたい方は冊子をご一読ください）。

第 1 章についてのみ見てみます、これは「民主導（＝財界・大企業と私は見ます？）・自律システムが新しい成長をつくる」とする福祉・医療の内容です。

年金給付・高齢者医療費を中心とする社会保障給付を増加させることは現世代や企業の負担を重くする。

＊ 2025 年まで実質年 2% 程度の経済成長を維持するために、社会保障制度や財政構造等の改革を断行する。

所得課税や社会保険料に依存せず、納税者番号制度などを導入し、国民に公平・公正な負担が求められる消費税率を大幅に引き上げ活用する。

＊ 財界・大企業は、グローバル競争と新製品開発のために、法人税率はさらに高率の大幅減税を強調する。

＊ 現在、サラリーマンの社会保険料などは、本人と事業主とのマッチング拠出が前提となっているが、これは本来、個人が全額負担すべきところを事業主が肩代わりしているので、社会保障制度でカバーするリスクは働き方の選択にかかわらず、個々人が等しく生ずるものであり、今後は個人の働き方に中立的な保険料賦課方法とし、企業の従業員についても、自営業者と同様、保険料を全額本人負担とする方法に改める。

＊ 個人の自助努力を後押しするメニューで、①：公的医療保険のスリム化をはかる。②：選択肢を多様なメニューや保険プランから内容を個人で選択させる。③：株式会社などから医療サービス・保険プランを提供する。

＊ 活力を引き出す税制の再構築案＝「財政シミュレーション」（日本経団連事務局作成）：

要点は、2010 年度より年金は 5% を抑制し 2 兆円を削減する。医療費は年平均伸び率を 2% 抑制して 5 兆円を削減することを開始すれば、2025 年度の消費税率は 28% であると試算。さらに消費税率を 2007 年度に 10% 引き上げ、その後も同じように消費税率を引き上げつつ、年金と医療費を合わせて 13 兆円削減すれば、2025 年度の消費税率は 18% になる。また、2004 年度から毎年消費税率を 1% ずつ増税し、給付削減を行えば、2014 年度の消費税率は 16% で維持できる。というものです。ここの試算から消費税率二桁案が出てきています。

＊ さらに、教育・軍事にも重大なビジョンが示されています。今回は省きますが、概要は、都留文科大学の後藤道夫教授のご講演を拝聴し、私が理解した範囲で述べますと、{新自由主義構想の中での教育は、大企業の従業員は「即戦力」が求められていて、入社してからの企業教育はしない。そのためには日本の教育システム・カリキュラムの大幅な変更が必要である。中高一貫教育・週 5 日制度もこの過程である。また、国外在住での企業は外敵に対しての保護は絶対な必要条件です。自己防衛は欠かせません。「ネオコン」のアメリカ頼りの軍隊は当てにはなりません。企業の即戦力は「日本が軍備」を強大にすることです。有事法制を企業・財界に有利に確立し、憲法第 9 条の変更を行い、企業を優位に存続する目的が最重要課題です。} と。{後藤教授のご講演は「平成 15 年 8 月 10 日（日曜日）：午後 4 時小郡の「山口グランドホテル」で予定していますのでぜひご参加され、お聞きいただければ幸いです}。

【私の批評と考え】

1：財政と社会保障に関して：

財源は税制を財界・大企業の都合のよいように変更して、直間比率の見直し、財界・大企業にはもっとも影響を与えないですみ、国民からは幅広く、貧富の差が無く、いわゆる逆進性（お金持ちも、貧困の人からも同じ金額の負担をさせる）は高いが一律に搾取できる消費税の活用を当て、負担の

公平化と誤魔化した記載をしている。そして、本当は国民のために負担をすべきである財界や大企業は、最大の不安要因としての社会保障制度を逃れるために放棄して、この抜本改革が必要として高々と謳いあげています。反面、自分たちは新技術の促進と競争社会でグローバル化に対応する基盤として「とりわけ、

法人税率は大幅に引き下げるべきである」と強調しています。

さらに、個人の選択肢を拡大するとの美句でもって、最悪のアメリカ医療保険制度の「市場競争原理制度」である、保険医療制度への株式会社や特区制度、ひいては、個人負担増加の自由保険制度や個人負担医療保険制度、薬品自由販売などの導入を目論んでいます。

企業負担をなくし、個人の負担を増大させる保険料などの構想で、企業は終身雇用を完全に放棄しました。

2：税制に関して：

政府・政治とは何でしょうか。

税制面から考えてみますと、国民からどのようにして税金を集め、その結果、国民の血と汗で納付した貴重な税金を、国民に対してに有効に使うかを定める重大な役割を担っているのが政治・政府です。

税金の納付には、応能負担の原則があります。『租税はすべて市民の間で、その能力に応じて、平等に負担するもの』とされています。

そして《社会契約論》では『公の税金は「政府」がそれを吸い上げる源から遠ざかれば遠ざかるほど重くなってくるという原則に基づく。この負担の軽重は、課税の量によってではなく、税がそれを支払った人々の手に戻ってくるために歩まねばならぬ道のりの「長短」によって計らねばならない。この流通が敏速にうまくゆけば、納税の多少



《死の勝利》：ブリューゲル、ピーテル（父）
（1562～63 年）プラド美術館（マドリッド）
{恐るべき戦争とその結果は大量の死と焦土である}

などは問題ではなく、人民は常に富み、財政は常に健全である。（欲張りでない政府。）これに反して、人民の支払う額がいかに小さくとも、その小額の税が払いっぱなしで、彼らの手に戻ってこない時、人民はほどなく力尽きてしまう。人民は常にコジキである。（非常に欲張りな政府。）この二つの政府が有りま

す。日本の政府はどちらでしょうか？ 財界・大企業の新日本ビジョンも読まれて結論を出してみてね。

私の結論＝{人民と政府の距離が増すにつれ、租税は重くなるという事態が生まれます}：政府財政諮問委員会・竹中・塩川・小泉等々の顔が鮮明に浮かびます。

このような卓越したフランス革命時の近代税制の租税法律主義の基本原則も、リンカーンが提唱したアメリカの「人民の人民による人民のための政治」の宣言も{ネオコン}の基では空しい“叫び”に過ぎません。

3：最悪の事態として「有事 3 法案」が討議されています。

医療と福祉は国民の命を預かる私たちには当然として重要な課題です。それにも増して、一人ひとりの生命は個人にとってはもっとも重要条件です。戦争のない【平和】がいかに重要で重大かは、日本の国民の全体が痛感しています。

世界初の原子爆弾被爆被害国【日本】は【平和独立国＝日本】を世界中に公言することが重要です。【恒久平和】がなければ「健全な社会保障も医療もありません」。将来の日本国が過ちを再び犯さないことを祈りつつ、また、この記載を読んでいた皆さんが、今の医療保険制度と社会福祉制度がより良く充実した内容になるように、また、恒久平和運動をされることを心からお願いして終わります。

ベトナムの SARS に思う

下松 岩本 功

感染症の脅威をあらためてわれわれに教えてくれた SARS がやっと下火になりつつありますが、まだまだ気が抜けません。3 月 20 日のイラク戦争開戦翌日から 1 週間ばかり予ねてから予定していた NGO 活動のためにベトナムへ行ってきました。往復とも香港経由でしたが、その頃はまだ SARS の原因もはっきりしていませんで、香港では「新型肺炎」というパンフレットが空港のいたるところに置かれ、市内ではマスクが飛ぶように売れており、食堂やコンビニでは店員のマスク姿が異様にも思えました。ハノイでは毎日のようにハノイ医科大や国立病院医師とは、原因ウイルスは？ 感染経路は？ などが話題になりました。

ベトナムでの第一号患者さんは、中国・香港経由で 3 月はじめに入国した中国系アメリカ人で、入院していたハノイ市南地域にある外国人向けのフレンチ病院から香港に緊急移送されたのちに亡くなりました。その後のフレンチ病院では次々と治療にあたったベトナム人医師、入院患者や家族の 50 数名が発症し、死亡者も出ましたが、ベトナム政府はすぐさま病院を閉鎖（隔離）し感染を

抑止したから大丈夫だと医師達は語ってくれました。

さすがはベトナム戦争に勝利した国だなあと改めて感心させられました。またハノイには JICA 支援のバックマイ病院もあり日本の専門家の意見をいち早く取り入れたことも幸いしたようです。私が滞在中のハノイの日中は蒸し暑く、クーラーも不十分なホテルでは窓を開け放していました。同じようにフレンチ病院でも病室の窓は開放されていたようです。これは「密閉して拡散を防ぐ」という WHO 方針には反していましたが、これが結果的には院内感染抑止になったようです。まだまだ一般家庭には冷房設備が普及していないハノイでは窓を開け放していたことが SARS 拡大の予防にもなったと言われました。後にベトナムならではの SARS 抑止方法が WHO ハノイ事務所から対策助言集として全世界に発信されました。クリミア戦争で負傷兵を劣悪な環境下に収容していたのを改善し、献身的な看護で多くの兵士を元気づけたフローレンス・ナイチンゲールを思い出しました。

今回の滞在中にはイラク戦争の報道は少なく、いち早く SARS を閉じ込め、前へ前へと進むベトナムの姿を至るところで垣間見ました。ハノイで今年末に開催されるアジア大会会場の現場を見聞し、枯葉剤被害 2 世にベトナム製の特殊な車椅子を送るために訪れたフエ近郊では世界遺産になっているミーソン遺跡（チャンパ王国）の観光開発現場を見ました。

予定スケジュールも終わる頃にはハノイ医科大との共同調査のために採取したダイオキシン濃度測定のためのサンプル 130 個（16kg）を福岡まで持ち帰るとい



香港・コンビニにて

う難題がありました。世界中がイラク戦争でピリピリしている時に SARS をかいくぐって帰れるかどうか分かりませんでした。ハノイは現地医師のおかげでスムーズに出国できましたが、予想どおり香港では血清サンプルが激しくチェックされ、出国カウンターのスタッフとのやりとりの後に責任者に「日本医師会会員証」を提示し経緯を説明すると OK となりました。

まさに「日本医師会会員証」はパスポートと同じように私にはすばらしい ID の役目をしてくれました。これまでは英文の医師免許証を携帯していましたが、新しい会員証を携行するようになってからは海外では身分証明証として頼もしい存在となっています。

ベトナムでは全国民が ID カードを携帯しており、いつでも、どこでも提示しています。アメリカではソーシャルナンバーがあり、多くの国々では当然のこととなっており、かつて西アフリカには部族ごとにミニ仮面「コマ」があり、木彫りの小さなコマを持っていれば他の部族との接触がスムーズに行えたようです。しかし、国境なき感染症はいつ、どこで、どのように姿や形を変えて現れるかも知れませんので厄介です。



建設中のアジア大会 陸上競技場



整備されつつあるミーソン遺跡



萩市長添山から観る歴史（二） 奇跡的邂逅と友情に感謝して

萩 山本 貞寿

小説より奇なりという言葉があるけれども、私は身をもって感じている。今回は素晴らしき人生の先輩を紹介し、この方を中心に話は展開するが、県医師会の先達ともご縁の深い方である。

私は帰萩 17 年、地元を目を向けることに始めて、吉田松陰のことを知ること、会津のことを理解することが、日本の将来のために必要だとの思いにいたり、かかわって多くの友人を得てきた。

緑陰随筆の平成 12 年に拙稿を載せていただいているのだが、戊辰戦争に登場した悲劇の福島県二本松少年隊のことに触れて稿を終わっている。私は長い距離を歩くのが好きで各地を訪れたりしていたが、このための目的で東北の地に行ったことはなかったのである。平成 12 年 3 月のこと、会津の理解のために二本松市を尋ねておかなければならなかった私は、霞ヶ城址跡を巡るランニングに参加した後、雪の降りだした中を当然のように、二本松少年隊を祀った大隣寺を詣でたのであった。

そして間もなくの日、木下隆さんからの手紙が届いたのです。霞ヶ城クロスカントリー大会を主催された福島民友新聞社長さんでした。平成 9 年の山口新聞のコピーが挟まれていまして、旧制豊浦中学、旧制山口高校、東京大学法学部卒、読売新聞中枢で活躍の後、福島に移られたと記事にありました。年齢は私より 9 歳上。国民が歴史認識

を正しく持つことは必要ですが、山口県の人が会津地方へ行くときには、戊辰戦争に対する深い認識を知っておかれるべきと私は思っています。昨年でも「戊辰怨念の深層」(畑敬之助)、「会津藩はなぜ朝敵か」(星亮一)、「敗者から見た明治維新」(早乙女貢)などの出版があったり、今年もまたそうしたシンポジウムが開かれることから窺えるでしょう。だから、長州人が、それも薩摩出身の奥様を連れて福島赴任となると、それからおいおいと話してくださった苦労も、私は理解できそうなのです。木下隆さんのご尊父様は、下関市医師会長、県医師会長、参議院議員、下関市長を務められた友敬氏でありますとのこと。

木下さんからは、以来先輩にして友人のように手紙だけでも 20 通以上、FAX、TEL としばしばいただいています。いろいろと驚き敬服すること



前列中央 木下隆氏

隣の女性は「烈々たる日本人」の著者よしだみどりさん

ばかりなのです。最初の手紙の結び、「せっかく山口県人が福島にいるのですから、何かお役に立つことがあればお申しつけください」。だれもが書いてしまいそうな言葉です。私はその年に始まった市の行事「萩城下町マラソン」の選手募集を締切間近に送ったのです。本当にビックリしました。福島県から 2 名の選手とその上司同伴で派遣が成りました。翌年は会津若松市からの選手出場が成り、ついにご自分までが応援に駆けつけられるという実行力に仰天です。

去年は社長から会長職へと昇られ、10 月の山口県行事「歴史の道交流トーク&ウォーク」でご来萩。「山口から東北へ、歴史と交流・未来を語る」と古川薫さんとの歴史対談トークを受け持たれ、私も二晩もお付き合いという栄を得ました（前頁写真）。

会津若松医師会会長の高谷雄三先生とは、昨年 3 月突然のような邂逅に始まり、待ちあぐねた仲がやっと叶ったように、同年齢の 2 人の仲は熱くなって 1 年の間にデートは 3 回となっています。

写真は萩市でのデートの時のもの。話が変わったようですが、高谷先生と私との見合いが実ったのは木下隆さんのお陰です。運命的に求め合っていたと言っても間に立つ人があったのです。木下



中央・会津若松医師会会長 高谷雄三先生
阿武郡 栗屋二郎先生
長門市 木下敬介先生とともに

さんが選手派遣の中で心を痛めておられ、相談の相手にと名前を示されたのが会津の文人・村野井幸雄さん（多才な人）、この方と手紙を交わすうちに、たぶん何の気無しのように私の主治医は高谷先生と書いてあったのです。さらに、不可思議なことが絡み合い見合いの日取り場所が決まったのです。

平成 14 年 3 月 30 日、見合いへと心躍り福島空港へ降りた私を木下さんは迎えてくださり、会津若松市までの長い道のりを車で送っていただいたのです。私たちには歴史的な集まりになったのです。ですが、会津と萩との関係、集まる顔ぶれなどからの考慮でマスコミに携わられる方はご遠慮を願いたいということになっていました。木下さんのご苦勞とこの仕儀は申し訳なきこととして忘れることはできません。

その木下さんが 6 月 20 日電話を下さり、会長職の勇退が認められたと、おそらく早くにと、伝えられたのです。今身近に会津、青森に関して嬉しく事態が進展しています。吉田松陰・松平容保侯（会津鶴ヶ城落城時の藩主）のお導きかもしれないと、人に会うことの不思議さと大切さを思い、締切前日に筆を走らせました。

よく調査もなく、お名前出すこと承諾も得ていませんことご容赦ください。



16 歳の兵士の夏

下関 西川 康夫

古稀をすぎた今も、鮮明に記憶に残っているのは、第二次世界大戦末期、学徒警備召集で陸軍の最下級兵士として過ごした 6 か月のことである。

昭和 20 年 2 月、台北高等学校の入学試験に合格し、あこがれの白線帽をかぶれる、と喜んだのもつかの間、3 月下旬には、台湾全島の中学 4 年生以上の学生、生徒全員が、「防衛召集待命」という名の召集令状によって、台湾防衛のために陸軍二等兵にさせられた。

3 月 10 日高等学校の入学式、3 月 20 日入隊式という慌ただしさであった。台北高校では、学校がそのまま兵営になり、台湾第 13862 部隊の第一中隊と第五中隊が編成され、一部の体格の大きい者が選ばれて、重機関銃中隊に組み込まれていった。

10 日間程の営内における基礎訓練が終わると、3 月末には淡水の南海岸である八里庄に駐屯していた敢 1787 部隊磯田隊に転属させられ、ここで陣地構築に協力し、併せて構築の技術を修得するよう命令された。磯田隊に到着した日の夕刻、官給品である学徒兵の食器が大量に紛失する、という事件があった。われわれの兵舎内は騒然となったが、小隊長は「さしくりに遭ったのだ」と、すぐ取り戻しの交渉に行った。「差し繰り」とは、広辞苑によると「つごうをつける」という意味だそうであるが、陸軍では他の隊の物品を無断で持ってきて、自隊での員数合わせをすることをいうらしい。ハツクルベリフィンは、「またチャンは云っていた。黙って人の物を持ってくる、いつかは返す、という気持ちさえあれば、泥棒にはならねえ」と云っている。帝国陸軍では、官給品は天皇から預かっているものである。お前が持っているのが、俺が持とうが、同じことではないか、という理屈のようだ。

五月初めには、自分たちの防衛陣地を構築するために原隊に復帰し、台北郊外の温泉である草山に移動した。ここで、ようやく台北高校生だけの部隊に戻ったのだ。草山での仮兵舎に寝泊まりして、竹子湖の奥、七星山北斜面の陣地予定地に 7 日ほど通って、木の柱、カヤ葺きの兵舎を作った。八里庄で蛇を食べることを覚えた私たちは、新駐屯地では大量の蛇に見参することになった。すでに、動物質蛋白は現地調達せよ、という達示もあって、とにかくよく蛇を食べた。アオハブなどは兵舎を一步出ると至る所にいたが、幸い、咬まれた兵は 1 人もいなかった。

陣地構築に忙殺されているうちに、弾薬が支給されることになり、弾薬を保管する壕を作れと命令されて、倉員二等兵と西川二等兵が作業にかかった。二日目の朝、現場について縦穴を除くと、ネズミが必死に走っていて、その後から蛇が追っている。野原で、蛇がネズミを追っているうちに、2 匹ともわれわれの掘った穴に落ち込んだのだろう。倉員二等兵は小円匙（シャベル）を器用に投げて蛇を仕留め、穴の中に飛び降りて、戦闘帽でネズミを土の壁に押さえつけて、苦もなく捕獲した。その夜、焼き鳥仕立てにしたネズミの足を一本貫ったのだが（何しろ分隊員は 12 名いる。4 本しかない足を一本くれたのは優遇措置だった）料理の仕方もうまかったのだろう。ネズミがあんなに美味いとは知らなかった。

われわれ第二分隊の横穴陣地に行く途中、兵舎から 1 キロほどの所に、温泉の小川が山から流れていた。だれいうとなく思いつき、石積みで堤を築き、川の中に温泉プールを作った。作業の帰り途にひと風呂浴びて、第二分隊はさっぱりした姿で帰営したものである。

一日の作業が終わる夕刻、全山がヒグラシの蝉

しぐれになり、郷愁を誘うのがことのほか印象的であった。

戦争終結で 8 月下旬に山を降り、8 月 29 日に除隊した。

われわれ台北高等学校の学徒兵の軍隊生活は、敵と撃ち合いをしたわけでもなく、事故死した兵もなく、結論的にいえば、6 か月間の長い夏休み

のようなものだった。軍隊というよりも、多分に兵隊ごっこのような一面もあったことは否定できない。

8 月末に除隊して、9 月 5 日から高等学校の授業が始まったのだが、みな、意識を切り替えて、学校生活にサッと戻ったのは我ながら立派だったと思う。

元心臓血管外科医として昨今思うこと

下関 吉利 用和

昨年 4 月の医療法改定で導入された手術の施設基準に対して、日本外科学会（加藤紘之会長）、外科系学会社会保険委員会連合（出月康夫会長）から批判が集中している。従来からある、未届けの場合手術料が算定できない手術の施設基準に加えて、所定点数が 100 分の 70 へ減算になる新しい施設基準である。同じ手術を行っても保険医療機関によって算定する点数に格差が生じることになった。厚労省の考え方に、症例数と技術には一定の相関があるという前提があるが、日本での相関関係についてのエビデンスはないし、症例数の数字の根拠も明らかでない。大都市の医療圏ならともかく、人口の少ない地域医療圏では、二次医療圏で医療を完結することができなくなってきた。昨年 3 月の中医協で、外来再診料と外来管理料の通減制と一緒に手術の施設基準をあっさりと認めた青柳俊日本医師会副会長も、診療側とし

て認めたことを非常に反省しており、廃止の方向で、中医協の場で出張していきたいと述べておられるが、財源確保の面から、果たして期待できるか怪しい。

一方、下関市においては、国立下関病院の移転後のあり方について、地域医療の立場から会員の間に不満の声があがっている。診療科目を 23 科に増やし、癌、循環器、エイズ、成育医療に重点をおき、心臓血管外科を新設すると聞いている。構想は素晴らしいが、質の面で問題があると思う。豊浦を含めた下関医療圏の人口は約 30 万で、下関市内の 4 つの公的病院にそれぞれ循環器科があり、心臓手術は、下関済生会病院、下関市立中央病院の 2 施設で行われているが、人口当たりの疾患の発生件数が決まっている関係上、手術の施設基準を満たすのは、困難な状況である。私は、昭和 49 年九州大学心臓外科に入局し、平成 11

年開業するまで 25 年間心臓血管外科指導医として働いてきた。入局当時、心臓弁膜症、先天性心臓病の手術が中心であったが、ファロー四徴症の手術に代表されるごとく、手術成績は散々なものだった。再還流時の心筋障害でストーンハートとなり、びくとも動かない心臓をみて無力感に陥ったこともあった。その後、心筋保護法の開発、新生児人工心肺法の開発により、心臓血管外科領域はめざましい発展を遂げ、扱う疾患も冠動脈バイパス手術、胸部大動脈瘤手術が主体を占めるようになった。教室の後輩である角秀秋部長の率いる福岡市立こども病院の手術成績は、世界有数の成績を誇り、左心低形成症候群に対する Norwood 手術の成功例も報告している。敬愛する安井久喬前九大教授は、著書のなかで、「心臓外科手術は先人の築いた知識、技術の上に、毎日の診療、一つ一つの手術への真摯な取り組み、反省から、次々と後継者が日夜改良、工夫をかさねてきたものであり、外科医の至高のアートである。」と述べられている。下関市立中央病院の心臓血管外科部長として、在職 14 年間に末梢血管症例を含めて、1,223 例の手術を行ったが、そのうち、人工心肺を使用した手術は 516 例、冠動脈バイパス手術は、305 例であった。手術チームを組める最低のスタッフ 2 名、研修医 1 名の計 3 名で、外来、入院、手術を担当した。この間、部長としての悩みは、症例数がのびないことも当然であったが、ローテーターに心臓血管外科医としてのトレーニングを十分に与えることができないこと、危険因子を有すシビアな症例が多くスタッフにスキルの向上目的で術者をなかなか任せられないこと、少ない人数での抄読会やカンファレンスで活発な意見が出にくいこと、開催することだけが目的としか思えない各種院内の委員会出席の雑務に追われること、徹夜の急患手術後、日常業務と術後管理に携わらないといけないこと等々あった。山口県下に心臓手術を行う施設が 8 か所あるが、上にたつものは、同じような悩みを皆抱えているのではないだろうか。これらの経験を基に、下関、豊浦地区を対象とした救命救急センターを併設した循環器病センターの設立を強くのぞみたい。その際、市内の公的病院の循環器科は、慢

性疾患を中心に治療を行うこととし、心臓カテテル検査が必要な時は、循環器病センターに紹介する。2 つの病院の心臓血管外科も循環器病センターに統一し、最低 2 チームの手術チームが組めるように、専門医を配置する。急患はすべて、救命救急センターへの搬送を原則とする。4 つの公的病院それぞれの役割分担を明確にし、施設相互の機能分担と業務の連携を踏まえ、ネットワークを形成することにより、その地域における効率的な質の高い医療が提供できるのではないだろうか。病院の経営母体、出身大学がそれぞれ異なるため、統一したセンターの設立は、非常に困難な夢としか思えないが、果たしてそうであろうか。地域医療の中核を担う下関市医師会と自治体の首長である下関市長の強い意志とリーダーシップがあれば、実現可能な夢なのではないだろうか。これからの総合病院は、なんでも屋さんではなりたない。循環器領域だけでなく、外科専門医の 4 つの Subspeciality である消化器外科、小児外科、呼吸器外科の領域においても、また脳神経外科領域においても中心となる公的病院を決めればよい。開業医にとっても安心して、患者さんを紹介できるし、病院にとっても、まとまった症例数が集まることにより、施設基準に惑わされることなく、クリティカルパスの導入、コスト軽減に繋がる。働く専門医にとってもスキルの向上、維持が得られる。そして何よりも大事なものは、最大の恩恵を受けるのは、地域の市民であるということである。



携帯メールは ばあちゃんを救う

下関 奥園 美子

携帯電話によるメールは、この数年、若者を中心として瞬く間に普及した。片時も携帯を離さず、メールを受信するや神業のごとき素早さで返信する我が家の女子高生を見ていると、親としては思わず舌打ちしたくなることもしばしばである。とはいえ、この携帯メールというやつ、確かに極めて手軽で便利である。私自身、2 年前に娘が他県の高校に進学して下宿暮らしを始め、パソコンを持たない彼女との連絡手段として携帯メールに手を染めて以来、その簡便さを日々実感している。今や、携帯がなければ娘を一人で出したりできないと思うし、三十数年前、携帯もメールもない時代に、うちの親はよく一人娘の私を遠くに出したもんだと、妙なところで感心している始末である。

こんな話を実家の母にしていたら、母が、自分も携帯でメールがしてみたいと言い出した。母は昭和 3 年生れの 75 歳。高校の数学教師という、まったく思想性を問われない、裏返せばどんなに自分勝手に我が儘なキャラクターでも勤まる職業を生業として生きてきた父に、半世紀以上にわたり仕えて来ただけあって、極めて控えめ、決して新しい物好きではない。ほんとにできるの？ というのが、私の正直な感想であった。

丁度その頃、以前から持っていた携帯電話が不調なので買い替えたいと言っていたこともあり、たまには親孝行と、メール機能付きのフラップ式携帯電話をプレゼントした。娘の帰省に合わせて、実家の両親が我が家に泊まりに来ていた時のことである。操作を教えるのは、我が家では飛び抜けて携帯の機能に詳しい娘の仕事。懇切丁寧に手取り足取り、私の携帯に『今日は。〇〇です。』とメールが入るまでに数時間かかった。

「ばあちゃん、せめて基本料金分はメール使わんといけんよ。」と心配する娘をしり目に、本人は至って楽観的。

「練習して、どんどんメール送るから楽しみにしてて。」と豪語し、おまけに待ち受け画面を変えてほしいと言って娘を呆れさせた。そして、母、私、娘と女 3 代揃った写メール画像を張り付けてもらい、喜んで帰っていった。

それからしばらくは何の音沙汰もなく、やはり 75 歳の母にメールは無理であったかと諦めかけていた時、やっとメールが来た。他愛ない近況報告であったが、相当練習したものとみえ、絵文字まで使ってあった。娘にも同じメールを送ったらしく、娘からも「ばあちゃん結構やるネ～」とメールが来た。以来、私と母の間では、携帯メールが連絡手段として完全に定着している。かつて、電話がその役割を果たしていた頃、単なる近況報告というのは、母としても遠慮があったようだし、こちらとしても、場合によっては鬱陶しいと感じることもあった。しかし、メールは、電話と違って受け手の生活に無理矢理割り込んでくることがないので、他愛ない話でも気楽にできる。おまけにどういう訳か、素直で優しい物言いになる。孫に対しても同様であるらしく、時々メールを送って返信が来るのを楽しみにしているようだ。先日は『メールを教えてもらったお陰で世界が広がりました。〇〇ちゃん（孫）ともメル友になれて嬉しいです。ありがとう。』というメールが来た。

ちまたでは、『インターネットは独居老人を救う』というらしい。

我が家では、『携帯メールはばあちゃんを救う』である。

学校医 47 年栄えある叙勲

下関 倉富 拓己

私は昭和 31 年に下関で眼科医院を開業しました。今日まで 47 年間学校医として児童・生徒の健診を続けております。最初市内の幼稚園・小・中・高校の健診は内科の先生方が目の疾患も診ておられました。

終戦後の食糧難の時代、国民の衛生状態は極めて悪く、感染症（結膜炎・トラコーマ）が児童・生徒に蔓延していました。特にトラコーマは放っておくと、失明の恐れがあり、眼科専門医の診断と治療が必要でした。また、トラコーマと知らずに海水浴をしますと、ますます悪化させます。（後年、各学校にプールができ、夏にはプールが解禁になりますので、人から人に伝染する病気を防ぐ為には、プール許可の証明書が必要になります。数多くの生徒が病院を受診し、治療を受けておりました。）そのうち、サルファ剤や、抗生物質の点眼薬が普及し、又重症トラコーマは手術によって根治するようになり、学童の間にはトラコーマは殆んど見られなくなりました。

ところが感染症が影を潜めるのに反比例して、屈折異常（特に近視）が増えてまいりました。児童・生徒の視力障害が問題視され、「日本人の 3 人に 1 人が近視」と言われるまでになりました。

近代文明社会では、日々の生活で目を酷使し、近業中心となるため、近視が増えると言われております。戦後の日本でも、学童の近視が増加しております。子供達を取り巻く環境が、近視の増発を促しているのは事実のようです。読書やテレビを見る近業が生活の大部分を占める一方、各家庭へのパソコンの普及で、テレビゲーム（ファミコン）や、インターネットなど、長時間目を使うことが多くなりました。こうした子供の目に悪い環境は改善せねばなりません。正しい姿勢と距離を取ること、室内の照明に気を付け、時々目を休め

る。また、できるだけ屋外で遊ぶように、目に負担のかからぬ生活を送るよう指導しております。

最近では、精神的ストレスによる健康障害が大きな問題となっており、「目」のことより、子供の「心」の問題について、学校保健委員会などで講演する機会が多くなりました。市内の小学校の PTA 研修会で講演を頼まれた際、子供の心の健康問題には、親の果たす役割が重要であることを力説いたしました。

昨今のマスメディアの報道にもあるように、小・中学生で不登校、保健室登校の児童・生徒が増えていることに憂慮を抱き、それなりに関心を持っております。いじめや、家庭内・学校内暴力は依然として減っておらず、学級崩壊と呼ばれる現象まで起こっております。このような現状を見るにつけ、子供の心の健康問題への対応をどうすればよいのか、その責任は、親・学校・地域社会のどこが負うべきかを考えると、三者の連携、協力は不可欠ながら、もっとも親が負うべきだと言わざるを得ません。

日本の教育を何とか変えなくてはならないと感じておられる人は、多いだろうと思います。幼児期に堪える精神力を付けさせ、きちんと躾けることに、親も、社会も気を配らなくてはなりません。

学校現場では、いじめや、保健室登校等の子供達の心のケアに養護の先生が拘わる機会が増え、業務が質的にも、量的にも、大きく変わって来ております。そうした先生方を前に、お話しすることが多くなって来ました。それだけに今の私は子供達の「目」と「心」を同時に看ることを心掛けております。

山口県眼科医会は、昭和 60 年全国に先駆けて初めて、非医師による医療類似行為として検眼車の違反行為を山口地方検察庁に告発しまして、こ

れに対し当時の羽田日医会長より、非医師の医療行為を告発した例は全国でも初めてであるからフォローは日医に任せてほしいとの心強いお言葉を賜りました。

現在でも日本眼科医会では、医師以外の無資格者によるコンタクトレンズ診療や、眼鏡士法案の法制化の阻止に向け、折衝を続けております。もちろん、これらのことは、当初から何かと相談に乗っていただいた、末永弁護士のご助力があってこそと思います。

山口県眼科医会は、医師のいない検眼車による検眼は違法であるとのポスターを県内各医院、学校にも掲示しました。最近学校でも、眼鏡に変わってコンタクトレンズを使用する生徒が増えてきま

した。コンタクトレンズは目には異物ですから眼科での定期検査や、処方、装用等が的確になされるように、絶えず指導しております。

開業当時、市内には眼科医が少なく、僅か 4 人で各校の健診に駆け回っておりました。そんな時代もありましたが、どんなに忙しくても何事もすべて、自分の目で確認し、処置して来たことが、患者さんとの信頼関係に繋がっていると思います。子供の「ありがとう」の一言で疲れは吹き飛び、どんなにか報われたことでしょう。

今日まで全力で診療を続けてきたことが認められたものか、平成 15 年春の叙勲で、勲五等瑞宝章に叙せられました。去る 5 月 9 日皇居に参内し、豊明殿において、天皇陛下に拝謁の栄誉とと

もに、お言葉を賜り、大変感激いたしました。この度の受章は、私一人によるものではなく、多くの方々のご指導、ご支援があってこそと、改めて深く感謝しております。



ちょうわでん
長和殿



ほうめいでん
豊明殿

『見える』とは

宇部 長谷川 奈津江

眼科の外来で患者さんからの訴えによく出てくる言葉のひとつが、あたりまえといえばあたりまえだが、「見える」、「見えない」という言葉だ。本当によく聞くので、時々何をもって見えるというのかと不思議な気分になることがある。

そりゃあ視力がよければ見えるだろうと思うでしょうが、事はそう簡単ではない。たとえば白内障の患者の中でも比較的若い人なら視力が 1.5 あっても夜間運転時ライトがまぶしく見にくいと、手術を希望されることがある。これとは逆にとてもお年のおばあちゃまなんかは視力 0.1 でもよく見えると主張される。まあ長年住み慣れた我が家で過ごしている分にはそんなに不自由ないのかもところかも納得している。

納得できないことがあるのは子供の近視。一般的には視力が 0.5 をきると、授業中黒板が見えにくくなる。ところが思春期の始まる小学校 4 年生、5 年生の女の子は 0.2 や 0.1 でも「ワタシは黒板がよく見えるノ、ぜんぜん大丈夫ヨ」とおっしゃる。いやいやこの視力では一番前の席でも眼を細めないと見えないし、眼が疲れたり、頭が痛くなったりすると説得にとりかかる（結構徒労に終わることも多いが）。もう一押しと思えばあなたは顔立ちがはっきりしているからメガネをかけたならよく似合うよとまで云う。

でもまあ周囲の人間が皆、自分の顔に注目していると思込む自意識過剰もお年頃、ホルモンの仕業と思えば仕方ないかと、むしろ可愛らしい気がする。

心穏やかでないのは、子供のほうは見えにくいのでメガネをかけたがっているのにもかかわらず、親のほうがかawaii そうだからと反対する場合。子供には身体に関する自己決定権はないのかと問

いたくなるが、「心身活発なこの時期に周りのお友達と同じように見えないほうがかわいそうですよ、それに黒板の字が読めないと成績が下がりますよ」と、一応ソフトに説明する。

たいていの親御さんは、これでしょうがないかと応じてくれる。ごく少数の、娘を持った父親を除いては。こういうお父さんにはどんなにこちらが言葉を尽くしてもメガネはかわいそうだの一点張りで聞く耳を持たない。まったく持たない。

「もし近視になったのが息子でも同じ態度を取るのか、あなたの幼稚な女性幻想を娘に託すな、女性とは見る性ではなく見られる性とかまだ思っているのか」、などとは評判を気にする新規開業医は決して云わない。

ただこのあいだは、パパが診察室に入ってくる前のわずかな時間に、もうメガネをかけたいのという女子中学生の訴えにかっとして（もちろんパパに対して）しまったのは事実です。

渋るパパにちょっと強引に遠視のメガネをかけさせ、「お嬢さんはこんな見え方で生活しているんですよ、おとうさんも一週間このメガネをかけて会社に行ってください。行けないのならメガネを作ってください」と、まああまり婉曲とは言いかねる説明をしたような気がするし。

結果ですか、それは当然眼鏡処方に同意してくれました。でもそれから二度とその親子をみていません。お父さんご自身も患者さんだったのです。お嬢さんも他の眼科でちゃんとメガネのチェックを受けておられるといいのですが。

私も医師としてもっと患者さんの立場に立ち、パパの心情をもっと酌むべきだったと反省しています。本当に。

また、今度、いつか、そのうち…

防府 御江 慎一郎

“また今度行きましょう”、“そのうちなんとかしましょう”。よく聞く言葉だが、実にいい加減なフレーズである。またとはいつなのか、そのうちとはいつなのか。いつかは決まってないけれど、とりあえず約束したことになっているのか。別れ際の決まり文句？ 曖昧な表現ですまそうとする日本人の癖？ 子供の喧嘩じゃあるまいし、定着しているからこれでいいじゃないか、と言われればそれまでだが、個人的にはあまり好きではない。具体的に日時が決まってないのなら単に“さようなら”あるいは“今はできません”と言えばよいではないか。そういえば英語にも“See you”“Take it easy”、“Keep in touch”、など日本語だと“じゃあ”となるようなアバウトな表現があるが…。あまり神経質にならなくてよいのかもしれないが、何か納得がいかない。

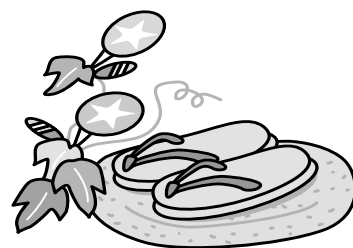
前置きが長くなったが、この度開業した。当年 43 歳である。外科医の端くれとしてなかなかメスを捨てきれなかった。さらに持病の腰痛、肩痛に悩まされ治療と開業のタイミングを逃していたため中途半端な年齢になってしまった。バリバリの働き盛りと言われればそうかもしれないが、もうピークを過ぎた中年と言われればその通りだと思う。実家が開業医だったため医師会の先輩に早く帰って来いと言われ続けたが、ほとんど馬耳東風であった。また仲間からもいつかは開業するんだろうと言われて、つい、“そのうちそのうち”と適当に答えていた。

新規ではなくいわゆる“後を継ぐ”タイプだが、開業がこれほど大変だとは思わなかった。新規開業の先生方のご苦労に比べたら、たいしたことはないとお叱りを受けそうだが、当の本人は本当に胃が痛くなる思いである。診療以外のことで頭を

使うことがなんと多いことか。勤務医時代は院内外の〇〇委員会とか××会議といった集まりに拒絶反応を示す大の会議嫌いで、診療以外のこと（くだらないと思っていた）で束縛されたくなかったため、手が空いていても手術中とか処置中など嘘をついてしょっちゅう逃げていた。しかし今回はそうはいかなかった。開業にあたって突貫で内装工事を行ったため、連日の工務店との打ち合わせ、さらに薬品の補充、機械の点検、従業員の整理、関係省庁への届出など、開業直前まで前任病院との二足のわらじだったこともあり多忙を極めていた。そのような時にやはりうわさを聞き付けたのか製薬会社、機械メーカーなどが一斉に訪問攻勢に出てきた。いらないものはいらない、とはっきり断わればいいのに、これからの付き合いもあるし、“そのうちに”と受け流してしまっていた。どうも“ええ格好しい”になってしまうようだ。

数年前に“ファジー”という言葉が流行ったが、時、場所、人、内容を選べばファジーな付き合いでもいいのだろう。特に世渡り上手な人はファジーな付き合いをうまい具合に使い分けているような気がする。

実はこの原稿を依頼されたのも 1 年前で、その時も“そのうちに”と答えていた。あいさつと思えばいいのだろうか。



我が家の主婦はお父さん

下関 小笠原 万里枝

下関で開業して 11 年経ちました。普通の方より 12 年、ひとまわり遅れて医学部に入学し医者になった私はもう 50 半ばになってしまいました。前ばかりみて生きてきましたが、この頃は自分の生きてきた道をふり返ることも多くなりました。

これから紹介します文章は、4～5 年前に夫があるクラブに入会した時の自己紹介の原稿です。多少誇張されてはいますが、私たちのある時期がとてもよく表わされていて、あー、そんなこともあったなー、と読む度に面白く昔が思い出されます。

よろしかったら、読んでみてください。

『こんにちは、この度入会させていただいた小笠原〇〇と申します。よろしく願いいたします。私の職業紹介ということでお話をさせていただきます。私は上新地町、了円寺バス停前で桜山皮ふ科という、小さな皮膚科をやっています。医者は私の妻、そして私はその診療所の事務長としてやっております。職業紹介といっても皮膚科の外来診療で、そのほかといっても何もありませんので、どのようにお話ししたらよいものかと少々悩んでおります。ここで終わるという訳にまいりませんので、なぜ私の妻が医者になったかについて、少しお話させていただきます。

今から約 20 年前になりますが今の診療所があるところで小さな喫茶店を妻と 2 人でやっておりました。5 人位が掛けられる小さなカウンターとテーブルがふたつといった、こじんまりとしたお店でした。たくさんのお客さんがあるわけではなく、暇な時間には店に置いてある雑誌をパラパラと見ていました。私は車が好きなのでよく車の雑誌を見ていました。毎日たいくつそうに車の本を見ている私をかわいそうに思ったのか妻は、“そ

んなに車が好きなの、何がよいの？”と言いました。私は深く考えもせずベンツが欲しいと言いました。

それから私の妻の受験勉強が始まりましたが、なにせ、私たちが高校を卒業して 10 年という月日がながれていて勉強の内容といったものがずいぶんと変わってきていましたので、すべてが一からのスタートでした。言い遅れましたが私たち二人は中学の同級生で当時、妻は頭のよい人というのは知っていましたし、私は高校を卒業して就職しましたので大学には行っていないので医学部に合格するのがどんなに大変なことかあまりよく理解していませんでした。今からおもえばずいぶんと無茶な計画だったと思います。

受験するといっても当時私たちには 5 歳の長女と 2 歳の長男がおりましたので、受験できるのは近くにある大学、そしてお金もあるわけではないので公立の大学ということで受験できるのは山口大学の医学部だけということでした。店のカウンターの中で妻はコーヒーを入れながら勉強をしていました。お客で来る大学生に“この数学の問題どうやればよいの？”“ハイ、僕もよく分からないので今度来るまでに調べておきます。”“これは、自分が使っていた参考書ですがよかったら使ってください。”といった調子で勉強していました。約 1 年後、山口大学医学部を受験しましたが、こんなことでは合格するはずありません。次の年は小倉の予備校に通うことにしました。2 人の子供は保育園にやり、家のことは早々にして予備校に通う毎日でした。そして一年後無事、山口大学医学部に合格しました。

2 年間の教養課程は前の大学の単位を少し認めてくれて、教養学部のある山口まで、なんとか下関から通いながら終えることができましたが、3

年目からの専門課程はそういうわけにもいかず、一家して大学のある宇部に引っ越しました。

子供の学校行事、子供会の世話等はほとんど私がしてきました。子供の参観日にはいつも私が行くので子供の担任の先生が不思議に思ったのか“小笠原さん何か事情がございましたらお話いただけますか？”“いや何もありません、ただ妻は今、学生で授業中で来られないので私がきてやっているのです。”そうお話して納得していただきました。またあるとき子供の宿題で家庭の仕事調べというのがあり、

- 1・お掃除する人＝お父さん
- 2・洗濯する人＝お父さん
- 3・買い物する人＝お父さん
- 4・食事を作る人＝お父さん

といった調子で、家では全部お父さんだねと言って笑ったことが思い出されます。

また、子供たちはどこの家庭でも母親は学校に行っているものとずいぶん長い間思い込んでいたようでした。

そして4年間の専門課程を終え無事医師国家試験に合格しました。それから山口大学医学部附属病院、山口済生会病院の皮膚科での研修と勉強を終え、ここ下関に帰ってきて現在のところで開業しました。

もう一つ、おもしろいお話をしますと現在の医院のあるところは以前私たち2人が小さな喫茶店をやっていたところですので、以前この喫茶店のお客だった人が今は患者としてやってきます。受付にいる私をまじまじと見つめて、“うー、あんたどこかで見たことある”と言って不思議そうな顔をします。しかし、診察室に入っても、あの喫茶店でコーヒーを入れてくれていたママが今、目の前の医者だとはだれも気がつきません。診療が終わって夕御飯の時、2人して“今日はおかしかったね”と楽しい会話しながら一日が終わるこの頃です。

これからも地域の皆様に少しでも貢献できたいなと思っています。今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。』

幼かった子供達も成長し、長女は皮膚科医になり、長男は音楽家を目指してパリで勉強しています。夫は夢の車に乗ることができました。小さかった診療所も今年の春に大きく建ちかわりました。いろいろな夢が叶い、いろいろな経験をさせてもらいましたが、夫婦苦労して、親子寄り添って努力したあの頃の思い出が私たち一家の宝物であり、家族4人の心の拠り所であることを私たち皆は忘れることはありません。

螢

徳山 徳医句会

螢の名残りの一火灯りけり 浅海日出子

メルヘンの中より出でて洋かぼちゃ

薫風や素謡は無事酸素止む 村田 周陽

薫風や舞台に熊野の華をみせ

すれちがひ少し垂れ眼のサングラス 武田 子龍

風鈴に慈愛に満ちし母想ふ

スウェーデンにて 姫野 豊山

王城の警護は固し橡とらの花

北欧の五月の風に心満つ

趣 味

山口大学 森松 光紀

「趣味は?」と聞かれると、「何也没有せん」と答えるのが気恥ずかしいので、「海釣り」と答えることにしている。しかし、海釣りといっても 1 年に 1、2 度船頭つきで沖釣りする程度で、しかも釣り道具や釣り場はすべて船頭さん任せのいい加減なものである。早朝から昼近くまで釣り糸を垂らし雑魚を釣り上げている。

子供の頃、瀬戸内海沿いの小さな町に住んでいた祖父が、手持ちの小舟に乗せて海釣りをさせてくれた。もとよりエンジンはなく、オールで沖に漕ぎだすのである。巧みにオールを操る小柄な祖父の背中が逞しくみえた。釣れるのはもっぱらギザミと呼ばれる美しい縦じまの入った魚(ペラ)で、蒼い海から体をよじらせながら上がってくる姿に感激した。釣果は祖父が器用にさばいて夕食の刺し身となった。

山ばかりの群馬県に長く住み、ときには利根川でフナやコイを釣っていた。しかし、三方を海に囲まれた山口県に来て海釣りの思いが甦ってきて、誘われれば出かけるようになった。毎年恒例の医局旅行では 2 日目はゴルフと観光以外に海釣りコースが設定されている。これは「教授の好きな海釣り」ということで、世話役が特に準備してくれるのであるが、釣り船、船頭、弁当の手当てが大変である。

釣りグループは 1 日目の宴会が終わると同室に寝て翌朝の出発に備える。志願者は主に研修

医クラスの若手 5、6 名であり、講座スタッフの年長者からは敬遠されている。研修医たちは海釣りの経験が乏しく、まずは物珍しさから付きあってくれるのである。早朝 4 時、5 時の暗いうちから船着き場に行き、5 トン程度の小舟に移る。素人ばかりで、糸を絡ませたり重りを海底に引っかけたりするので、船頭さんの気性はその日の快適さを占う上で重要である。30 ～ 40 分かけて深さ 30 ～ 50m の漁場に向かう。海風に向かって波しぶきを浴びながら漁場に向かうとき気

分は高揚し、戦いが始まるような心意気になる。しかし、その途中、あるいはやっと漁場に着いて糸を垂らし始めるころから雰囲気陰しくなってくる。一人、二人と船酔いで動けなくなるのである。ときには過半数が胴の間に倒れ伏してしまうことがある。特に前夜二次会などで不摂生をした者の中には海中に「撒き餌」をする不屈者もいる。一度などは「死にそうだ」と訴える者が現れ、

港に引き返して下船させたことがあった。

私は子供の頃の経験のせいか、あるいは当日までの心がけによるものか、船酔いのために釣りができなかったことはない。研修医たちには「これはサバイバルゲームだね。君たちが将来大成するかどうか分るよ」と励ましているが、15 年間観察した結果、船酔いと大成との間には有意な関係がなかった。薄情とは思いますが倒れた者たちを横



壱岐のイルカパーク

目で見ながら、数時間の楽しみを堪能する。終わって陸に上がると、釣果を参加者で平等に分配して宇部に戻る。これまで笠戸島、大島、上関、見島、角島、国東半島などの沖で釣りをしたが、当日の天候や遥かに広がる海上の眺めが今も記憶に残っている。

今年の医局旅行は教授最後の旅行ということで、世話役が頑張って長崎県壱岐に設定してくれた。台風が近づく雨まじりの玄界灘を深さ 70m くらいの漁場に行き、深い海を相手に心ゆくまで

格闘した。30 ～ 40cm のイトヨリや 20 ～ 30cm の鯛が面白いほど釣れた。しかし、参加者 6 名中 4 名は沖に出たところから釣りの終わり近くまで瀕死の状態であった。もっとも彼らも帰りの舟の中では起き出していっしょに弁当を食べることができた。

若い諸君との膝を接した付き合いは今年度で終わりになるが、船上での苦しい体験を糧にしながら皆が大成してくれることを願っている。



はなわの「佐賀県」考

下関 赤司 和彦

この稿が印刷される頃には、すでにブームは終わっているかもしれない。今、「はなわ」の「佐賀県」という歌がブレイクしている。“バスにのって佐賀の県道を走ると一面田んぼだらけ”“まるで弥生時代”。ベース漫談師「はなわ」が歌う「佐賀県」の一節である。この歌をもう少し紹介すると、“佐賀にも牛丼屋ができた。オレンジの看板だけど名前は「吉田屋」”“今日も登下校する子供達は歩きなのにヘルメット”“車なんてめったに通らないのに蛍光テープを付けたヘルメット”牧瀬里穂も佐賀。公表してねえ”…。このように佐賀を徹底的にこき下ろす。自虐的と言うほどにこ

き下ろす。こき下ろすことで「笑い」を取っているのがこの歌である。

佐賀は確かに田舎である。佐賀というと農業県、佐賀牛、有田焼、呼子のイカの活き造り、有明海、三瀬のどんぐり村、佐賀平野のバルーンフェスタ、こんなところが思いつく。いずれも田舎の風景である。ここで佐賀がなぜ田舎であるかを分析するような無粋はしない。佐賀の人たちも佐賀が田舎であることを否定しない。むしろ自分たちの地域に愛着を持って「佐賀は田舎だから」と微笑みながら話す光景が目につく。

5 月の連休には、有田の町は陶器市の買い物客

でゴった返す。11 月の唐津くんちの人出も半端でない。特別な行事がなくても、普通の日曜祝日には呼子や三瀬、背振といった佐賀の行楽地は混雑している。いずれも「田舎」を売る行楽地である。漁村の朝市の風景、牛の乳搾り体験、冒険の森のフィールドアスレチック、どれもカンントリーカラーの魅力いっぱいであり、訪れるのは近隣の都市の住民たちである。そして混雑にもめげずに「田舎」を楽しんで、帰りの渋滞を苦ともせず帰ってゆく。ここでも佐賀の人たちは微笑みながら「佐賀は田舎だから」と話すのだろう。住み分けができていのである。都市の住民は佐賀が田舎であることを知っているから必要な時に田舎を求めてやって来る。佐賀の人も徹底して田舎を売ることによって利益を得る。

さて、山口に目を向ける。人口 150 万余。佐賀の 85 万より多いが、都市を抱える福岡や広島には及ばない。地理的に都市のある県に隣接しているのは佐賀と同様だ。小さな町が点在することも似ている。選挙になると「保守王国」と呼ばれる。大物政治家を輩出した歴史も共通点である。さらに空港の駐車料金が無料のことも。似ている。よく佐賀の田舎を「佐賀県人が通った跡には草も生えない」と表現するが、「山口県人にだけはそう言われたくない」と反論した佐賀出身の友人を思い出した。山口も佐賀に負けないぐらい田舎だ、と彼は言いたかったのであろう。

日曜の午前中、九州道の福岡インターチェンジでは山口ナンバーのファミリーカーをしばしば目撃する。天神で昼前に駐車場を探す山口ナンバーも多い。夕方^{もち}の百道の渋滞の中にも、福岡インターに向かう車列にも多くの山口ナンバーの車を見かける。乗っているのは「ニューファミリー」と呼ばれる子供を連れた家族や若い男女のカップルである。天神で買い物や食事をしてドーム球場で野球を見て帰るのであろう。確かに佐賀ナンバーの車も見かける。だけど山口ナンバーの車が目立つのである。理由は解らない。混雑の中での不慣れた車線変更や不案内な土地で駐車場を探すためのノロノロ運転が原因かもしれない。そんなことはどうでもよい。これらの光景は、若いジェネレーションは都市へ向かうという現実を示している。いくら「地域の振興のために」と唱えても、シー

モールや海響館では、とても都市の魅力にはかなわない。

佐賀は福岡という都市と共存することでその地域の存在意義を見いだそうとしている。「田舎」を都市の住民に高く売り込んで、佐賀の人は福岡をその行動範囲に収め、都市の機能や魅力を楽しむ。地下鉄は唐津まで乗り入れ、今や鳥栖市、佐賀市のみならず唐津市周辺も福岡市のベッドタウンとなった。現に筆者の娘の通う中学校には佐賀市や唐津市から通学する生徒が多数いる。地理的条件も影響していることは否めないが、「佐賀は田舎だから」と微笑みながら話す佐賀の人の「都市との機能分担」への意欲が感じられる。これは、佐賀の成功かもしれない。

再び、はなわの「佐賀県」に戻る。この歌について佐賀県の古川康知事は、「歌詞の内容が佐賀の実態とちょっとズレているから佐賀県民は余裕を持って笑い飛ばしている」と語っている。裏返せば、この歌詞を否定せず、微笑んで話さなければならない現実が変わらないということか。もちろん、余裕は田舎を自負している所以であろう。

「はなわ」は「佐賀県」の次として 47 都道府県全部について取り組むという。さて、山口の番となった時、どのような評価がなされるか楽しみである。また、山口の人も余裕を持って笑い飛ばしたいものである。少なくとも「作っても面白くないから」と言われる県であってほしくないものだ。



常識・非常識・異常識？

宇部 若松 隆史

古今東西、その時々で世の常識たるや微妙に変化していき、場合によってはまったく正反対となることがあるのは歴史が証明している。科学や医療の分野こそ例外ではない。IT 革命進行の真っ只中でだれも制禦しえない情報が氾濫しているからという訳でもあるまいが、昨今は一口に常識、非常識と断ずることのできない「異常識」とでも言うべき事象が多く存在して来つつある。これらの詳細をこの場で論^{あげつら}うのは不可能であるが、テクノロジーの進化・発展にともない、われわれの生活の利便性やより効率性を追求し実現させることはそれこそ常識的な課題・目的といえよう。これとは裏腹に確率的には低いものの、さらに大きな不便や取り返しのつかない危険への可能性と、一方で便利の負の効果として人々は新たな異なる忙しさにさらに追われて、限りなく破滅への道をたどるのではないかという「悲観的、懐疑的な結末」を心配することは、その目的のためには何でも「行け！行け！」の風潮下ではとても常識的な思考とはならないであろう。

さて、ここで小生にとっての日頃の「異常識」の例について述べてみたい。それは今や広く一般家庭に普及してきている自動血圧計に対する評価がいかななものかということである。結論を先に言えば自動血圧計なるものにはじき出された血圧の「数値」たるや、それをそのまま鵜呑みにしてはならないのである。もっと精確に言えば、動脈の弾力性が低下するほど、したがってより動脈硬化が強いほど、かつ実際の血圧が高いほど、聴診器でコロコフ音を聞きながら測定する伝統的な測定方法に比べ明らかに低い数値が出るのだ。よって生活習慣病の根幹をなす高血圧症の「要指導群」や「要医療群」をことごとく「正常群」にしてしまう危険をはらんでいる。はなはだしきは

収縮期血圧で 40 ～ 50mmHg の差があることも珍しくない。測る人により、また個々の機器によってかなりの測定値のバラツキが時に存在することは既に多くの人々が承知している。最近は昔に比べて機器ごとの差は少なくなったとはいえ、その原理において測定部の動脈拍動の振動・振幅の大きさの変化でもって血圧を測定しているため、より病的血管で測定するほどに簡易自動血圧計は人間様の耳より劣り、その結果実際より低い血圧をたたき出すのである。逆にいくら血圧が高くとも、動脈の弾性が保たれている血管の持ち主では双方の測定方法においてその測定値にほとんど差がないのである。また一般的に四肢においては心臓から遠いより末梢の動脈ほど、その硬化性変化が大きい。同じ理屈で手関節や手指での血圧測定をこれで行うことは、少なくとも高血圧症の予防・治療のためのモニタリングとしては言語道断といわねばならない。もっともこれらは元々測定する部位の血管が健常人々の血圧の推移を見るのには有用であろう。

医学や医療を営む現実の中で、われわれは各々にさまざまな常識・非常識そして「異常識」の狭間で揺れ動きながら今日を迎えているものと思われる。今回、簡易自動血圧計を取り上げたのは病・医院によっては入院患者の日々の血圧チェックや、また少し驚いたことには人間ドックや健康診断でもこれで測定すると耳にしたことがあるからである。なお、いわゆる「白衣高血圧症」にはこの種の血圧計が一役買っているものと想像する。

さて、医師・看護師が直接患者に触れるという行為や、その機会を必然的に有するという教育的な観点からも、この「異常識」についていくらかでも思いを馳せていただいたらと切に願う。

白アスパラガスは初夏の訪れ

防府 平井 得夫

昨年の緑陰随筆には鱧と泥鰌は夏が旬と書いたが、今年はドイツの初夏で旬の食べ物白アスパラガスをご紹介します。

5 月の半ばから 6 月半ばに掛けてドイツでは白いアスパラガスが出回る。どの町でも中央広場の朝市には写真 1 のように山と盛って売られ、客はいつも Kg 単位でどっさり買って帰る。缶詰めとは様子が違うのでさわってみたら生は意外に皮が固い。

値段は思ったより安く、品物によってまちまちであるが、200 ～ 800/Kg で売られている。

日本ではグリーンアスパラガスの栽培が多い。私も少し栽培しているが、種蒔きして収穫できるまで 3 年以上かかるので家庭菜園としてはお勧めできない。

野菜づくりの本によると、ヨーロッパでは白アスパラガスは寒い地方で栽培されるとある。

ドイツは西の国と思いがちだが、フランクフルト付近が北緯 50 度で、これはサハリン（樺太）の中央と一致するので日本から見れば北の国と思った方が理解しやすい。

長く厳しい冬が終わり 5 月に入って日脚伸び、すっかり冬からの開放を感じる頃、薄い紫を帯びた芽を出す初夏の象徴である白アスパラガスを土の中から掘り出す仕事は彼らにはたまらない。

日本人が食べる春の竹の子の初物よりもっと季節の移り変りを感じるのかもしれない。

ハイデルベルグ近郊の Schwetzingen は有名な産地で、毎年 5 月の第一土曜にアスパラガス祭り (Spargelsamstag) が開かれる。ここから Bruchsal へ続くバーデン・アスパラガス街道 (Die

Badische Spargel Strasse 全長 42Km) 沿いの町々でもそれぞれお祭りが開かれる。

同じ時期にイタリアを旅行した人が余りアスパラガスなど目に付かなかったと言っていたが、南ヨーロッパではそれほど歓迎されていないようだ。

ドイツ人は野菜の女王と言ってこれを好む。近頃は需要が多すぎてオランダ・ベルギーからも輸入すると聞く。

この期間はこの地方に限らず大抵の街のレストランではアスパラガス専用のメニューがはさまれ、"夏の味はアスパラガス" と書いた立て看板を店の前に出して客を招くレストランもある。

普通私たちが日本で手に入れる白アスパラガスは缶詰で、添え物の野菜として温めずそのままマヨネーズなどをかけて食べる。

ドイツの場合は写真 2 のように大きく親指ほどの太さで約 20cm 以上の長さのものが茹でられて暖かいまま大皿の正面に 6

～ 8 本がメインディッシュとして主座を占める。

肉・魚・卵や他の野菜は添え物に見える。アスパラガスにはオランダ風ソースを掛けて食べるのが一般的である。

その他卵で巻いたオムレツ風やパンケーキで巻いたものもあり、クリームスープも亦美味しい。

この頃、東京の地下鉄表参道近くの紀伊国屋で輸入物の白アスパラガスを買うことができる。

10 月に上京した時も売っていた。時期外れを不思議に思ったが、オーストラリア産と分かった。なるほど日本の 10 月はオーストラリアでは初夏なのだ。味は変わらない。



写真 1

日本でも最近需要が増え、今年の 5、6 月には北海道産の白アスパラガスがこの店で買うことができた。

白アスパラガスが手に入ったら、緑と違いまず硬い薄皮部分をむかなければならない。

大鍋にたっぷりの湯を煮立て塩をひとつまみ落とし、アスパラガスを長いまま入れて約 10 分茹でるだけである。

ハム・ソーセージあるいは仔牛のカツ等の肉やじゃが芋料理などを添える。

オランダ風ソースは卵黄を少量の湯とレモンをあわせ湯煎にかける。溶かしバターを数回に分けて泡だて器でまぜ、塩・胡椒で味付けしたもの



写真 2

である。(詳しくは「暮らしの設計」No.152 シュルツ祥子著 ドイツ家庭料理・中央公論社参照)

ややコレステロールの含量が多いのが気になるが短期間の旬の味だから目をつぶることにする。

去年ドイツ観光を終え帰国前日にベルリンのアレキサンダー広場を訪ねた。

市庁舎前の朝市で真っ白のアスパラガスを見たら思わず手を出して一束買ってしまっていた。

ホテルでカット部分を水でぬらして大事に機内に持ち込んだ。帰国の翌日料理して十分に名残りのドイツを味わうことができた。

雑 感

山口 村本 剛三

台風が過ぎ去った 6 月 1 日、山口県立中央病院を辞職して村本医院に帰ってきた。私が育った家でもあるその医院は、祖父の村本剛太郎が 40 年前に建てた。当時はモダンな建物で評判だったらしい。「新しい」「明るい」「清潔」が診療所を開設するうえで大切なことは十分わかっているのだが、村本医院もなかなか捨てがたい。逆に今の時代、かえってお洒落に感じてしまう。古くて素敵なところは生かしつつ、明るくて清潔感があり居心地のよい医院に改造するのが、現在の私の何よりの楽しみでもある。時々、その作業風景を 4 歳になる長男に見せて「お父さん、かっこいい」と言われると、涙が出そうになるほど嬉しい。

医師になって 13 年間、県内の僻地（周防大島の東和町にある大島東部病院、萩市見島診療所、旧萩市立病院）で、皮膚科だけでなく内科を主としたプライマリケアに総合医として診療してき

た。最後の 4 年間は山口県立中央病院で皮膚科専門医としての日常診療と、地域医療部として県内僻地の巡回診療と代診業務、救急救命センターでの救急医療に従事していた。これからは、今までの経験を生かして、ホームドクターのような皮膚科医を目指して頑張ろうと思っている。父も健在であり、往診も含めた、きめ細かい医療を、患者のニーズにあわせて提供できれば嬉しい。

一大決心をして帰ってきたのだが、今では何の違和感もなく自然体で診療している。振り返ってみるに、これは運命だったのだろう。大好きな言葉に「邂逅^{かいこう}」がある。15 歳のときに中学の恩師が別れ際に贈ってくれた。これからはさまざまな方と巡り会おうのだろう。

「今までありがとう。そして、これからもよろしくお願いします。」

新穂高遠征記

豊浦 飴山 晶

そもそもの始まりは叔父からの誘いでした。「新穂高ロープウェイ・スキー場が今年限り閉鎖だぞ。あんなスキー場、ほかにないぞ。どうだ行かないか?」という誘いでした。実はこの叔父 3 年前、とあるスキー場で腰椎を圧迫骨折。2 シーズンを棒に振り、今年に行きたくて仕方がないのに、「身内同伴でないとスキーに行っちゃダメ!」と家族から宣告されています。息子がいますが、いまどきの若者で、曰く「スキーはもうしない」。

こんなとき役に立つのが私の存在です。この叔父がスキーを教えてくれたのです。八方尾根や妙高高原にも連れて行ってくれました。学生時代には、ビール大瓶 1 ケース、2 人、一夜で飲み干したこともあります。「さあ、ここで一役買わなくてどうする!」…かくしてわが妻に対する大義名分もできました。

新穂高ロープウェイ・スキー場は中部山岳国立公園の中、岐阜県古城郡上宝村にあります。岐阜県とはいえ、山ひとつ越えれば上高地、という位置関係です。石川県在住の叔父と富山で合流して現地へ向かうことになりました。3 月 22 日土曜日を休診にして、3 月 21 日（春分の日）からの 3 連休で出かけることにしました。

3 月 20 日木曜日、18 時までの診療を終え、荷物の最終確認。前日まで飲み会やら何やらで、

とうとう宅急便に出せずじまいになりました。スキーもバッグも抱えて行く羽目に。でもこの板、今シーズン新規購入、抱えていくのも苦になりません。夕食を摂りながらビール、焼酎へと飲み進み、22 時過ぎに小月から大阪・梅田行き的高速バスに乗車しました。バス停まで送ってくれたわが妻、「骨折らないように!! 営業できなくなるわよ。」

高速バスを利用するのは初めてですが、意外と快適。乗客も山口を出る頃には満席になっていました。程よいアルコールのおかげで睡眠もとれ、

21 日早朝、無事新大阪駅に到着です。ここで誤算!!

7:12 大阪始発の北陸線特急・サンダーバードに乗る予定で、指定席を取っておこうかとも思ったのですが、朝のこの時間、新大阪なら自由席が確保できるだろうとタカをくくっていました。いざ

電車がきたらどの車両も満席、自由席は通路まで人があふれていました。お彼岸で、お年寄りのお寺参りの集団で占拠されていたのです。何とか辛抱し、予定通り富山駅で叔父と合流。車で新穂高へ向かいます。途中、カミオカンデで有名な神岡町を抜け、2 時間ほどで新穂高に到着です。家を出てから 14 時間強、なんと物好きな。「海外よりも遠いんじゃないかい…。」

新穂高ロープウェイ・スキー場の魅力はそのス



尾根沿いのコースとロープウェイ



左から槍ヶ岳、奥穂高岳、西穂高岳を望む

ケールの大きさです。120 人乗りの 2 階建て Gondola で標高 2,156m 地点まで昇るとそこはもう別世界。槍ヶ岳、穂高岳、焼岳といった 3,000m 級の北アルプスの山々が、手が届きそうな位置に迫ります。ロープウェイの乗客の多くは観光バスの客ですが、われわれスキーヤーも昇ってきます。スキーヤー達はそんな景色の中を尾根沿いに、最大斜度 40°、一気に（正確にはヘロヘロになりながら）2km ほど滑り降りるのです。今回、夜間の降雪と日中の好天に恵まれ、午前中はふかふかのパウダースノー、午後は膝ガクガクのコブコブでした。

麓の奥飛騨温泉郷、新穂高温泉が今回の宿です。井上靖の小説「氷壁」に出てくる由緒正しい旅館です。叔父と私を迎えてくれたのは、硫黄の香漂う、あふれる湯と熊鍋、囲炉裏で焼いたヤマメ、朴葉味噌などのご馳走でした。今では 2 人合わせて 108 歳ですので、さすがにケース単位では飲みませんが、ビールもすすい入ります。極楽気分で 2 泊して、いよいよ最終日を迎えました。

さすがに 3 月、最終日は気温が上がり、雪は重めです。それでも名残惜しくて、もう一本、もう一本と滑っているうちに 15 時近くになってしまいました。あわてて着替えて富山駅に向かいます。18 時の特急に乗らないと高速バスに乗り遅

れる危険が…。連休最終日の夕方に道路が空いているわけがありません。いきなり日々の現実が迫ってきます。「バスに遅れたら、明日の診療どうなるんだ!」「(妻に)なんて言い訳したらいい!」富山駅周辺は一段と混雑している様子でもうアウト! 叔父はそのとき高速道に入りました。こうなったら勝負です。富山から石川県小松までサンダーバードと車との競争です。

小松インターを降り、まっしぐらに駅へ向かいます。改札で乗車証明をもらいホームに駆け込むとそこへ電車がやってきました。

新大阪では時間の余裕もあり、バスターミナル近くの韓国料理屋で腹ごしらえ。もうトラブルは起こさないぞと気を引き締めつつアルコールの補給を終えて、早めにターミナルへ。すると今度は予定の時間にバスが来ない!「もしかして、場所間違えた??」と何度も確認するも間違いではない様子。と、そこへバス到着。席に座ると安心とスキー疲れですぐに寝入ってしまいました。

3 月 24 日月曜日、午前 7 時、小月のバス停に降り立ち、迎えにきた妻と 4 日ぶりのご対面。一風呂浴びて、ヒゲ剃って、白衣に袖を通して無事に遠征を終えました。「センセ、ヨォ焼けてますネー。」

漢文とのかかわり

ー玉乃世履の研究余話ー

岩国 吉岡 達生

はじめに

昨 2002 年 9 月に吉岡達生編著『初代大審院長 玉乃世履 一年譜』^{たまのせいり}を自費出版しました。大審院長は、現在の最高裁判所の長官に相当します。岩国出身の玉乃世履は、江戸後期から明治前期にかけて生涯をおくりました（1825 年＜文政 8＞～1886 年＜明治 19＞）。江戸後期には岩国藩の藩士で、明治前期には明治政府の朝臣です。

これまで伝記・評伝の単行本や研究書は、一冊も存在しません。没後 116 年にして初めて世に出た研究書で、詳細な年譜です。B5 版 266 頁、本体税込み 2,100 円で、委託販売所は岩国市の富永書店（TEL:0827-22-4100）です。目次をふくむ内容詳細は、ホームページ <http://www.028.co.jp/mac/yoshioka-cho.htm> に掲載しています。

拙著の「あとがき」にも記したように、玉乃世履の研究には、大きな困難がともないます。岩国藩士の部分は岩国の地方史で、明治前期の官僚・裁判官の部分は明治法制史・裁判史です。あたかも二人の人物を調べるように参考文献の分野が異なります。さらに、参考文献そのものも種々の分野にわたります。山口県医師会顧問弁護士の末永汎本先生をはじめとして、各分野の専門家にご協力をいただきました。

今回は、歴史の研究に必要な漢文（広くは漢学）とのかかわりについて述べます。あとで述べるように、私自身は漢文を独学し、のち中国文学者の入谷仙介先生にご指導いただきました。

漢文と江戸・明治の史料

江戸・明治期の史料の文章は、漢文そのものか漢文訓読体（漢文を読下した文体）です。また、書簡は候文（漢文訓読体の流れの一つ）^{そうろうぶん}です。古文書解説そのものは一つの専門分野で、岩国徴古

館の宮田伊津美館長に全面的な協力をいただきました。しかし、史料の読みとりは、自分自身の責任です。どうしても漢文の読解や漢学の知識が必要になります。

ここで、漢文と訓読^{くんどく}の関係について簡単に復習しておきます。いわゆる漢文の原文は、漢字の羅列で、古代中国語です（まさに外国語そのもの）。古代中国語が直接に理解できない日本人に、読むことができるようにしたものが、訓読です。漢文の訓読とは、簡単にいうと日本の文語文（平安時代を標準とする文語文法）に翻訳することです（訓読漢文）。したがって、現代の我われは、さらに現代語訳が必要です。中国語ができないと、漢文は訓読法で学ぶしかありません。

厳密に言えば、中国の正統な漢文に対して、日本人が訓読法に基づいて書いたものは和化漢文（準漢文—和臭がある）です。たとえば、玉乃世履のように江戸時代・明治時代の知識人は、漢文を読むだけでなく、漢文で文章を書いていました。

なお、昭和の戦前期までは、時間をかけて漢文を学んでいました。漢文から倫理や論理を教えられています。漢文を学んだその上に、ヨーロッパ語（英語・ドイツ語など）を習得しました。これらから、簡潔で明晰な思考を獲得していました。

漢文と私

私は戦後の昭和 27 年（1952 年）生まれで、漢文は広島県立の高等学校で初めて学びました（昭和 40 年代前半）。基本的に前時代的な教育で、試行錯誤で身につける「習うより慣れろ式」です。非効率そのものです。生徒は授業の科目が多くて、漢文の学習に時間はかけられません。手頃な参考書もなく、教科書レーダーなる虎の巻^{たちかけろさん}を使用しました。ただ思い出に残るのは、恩師の太刀掛呂山

先生に、高校一年生のとき新春の漢詩一首の実作をご指導・添削いただいたことです。広島県呉市の呂山先生は、戦後の昭和を代表する漢詩人の一人でした。

高等学校の漢文の授業をふりかえってみると、二つの点で欠陥があったように思います。まず、英語の授業にある英文法のように、古代中国語の漢文法（語の配列で意味が決まる孤立語）は教えられず、ただ句法として一部を習いました（当時は、漢文の語法・句法辞典はなかった）。江戸時代の漢学者と違って、英語を知っている生徒に、漢文の原文について外国語としての十分な説明はありませんでした（もっとも教師もわかっていなかったのでしょう）。そもそも漢和辞典というものは、語の理解に役立っても、漢文の文法の理解にまったく役立ちません。

つぎに、「漢文の訓読は、国文の文語文法に準じる」として、教師は説明を回避していました。確かに広い意味では、間違いではありません。しかし、訓読された文は、日本語の文語文そのものと、少し違うところがあります。違う点をまったく教えられませんでした。日本の文語文（古典としての古文）を読むのに比して、漢文の訓読という翻訳を書くことは、さらに難しいことです。白文^{はくぶん}の一部分を読下し文にするのも大変でした。

現在の高等学校の漢文は、大学入試のセンター試験の国語に一題出題されるので、かろうじて存在しているだけのようです。戦前から戦後にかけて授業時間が短縮されて行くのにあわせて、教授法を改革しなかったこと、手頃で明快な参考書や辞典を早い時期に作らなかったこと、などのツケでしょうか。

大学を卒業して医師になり、開業した岩国で地方史研究をはじめました。そのとき、森鷗外の史伝『伊沢蘭軒』と出会いました。伊沢蘭軒^{いさわらんけん}という人物は、江戸後期の儒者（備後福山藩）です。漢学や儒者を知る教科書のように愛読しています。ここで、独学で漢文の再学習をはじめました。高校生用の参考書から再出発して、専門書などを少しずつ読んで漢文学愛好家になりました。

基本的な訓読法による読解に加えて、外国語の英語学習のように漢文法をふまえた「暗号解読法」を併用しています（本当の理解とはいえませんが）。大学生以上になれば、漢文の正攻法は、まず現在の中国語（北京語）を学び、つぎに漢文（中

国の古文—文言文—）の学習に入ることです。できれば北京語会話を学びたいと考えていますが、時間がありません。人生の宿題にしています。

日本の文学と漢文学

江戸時代までの「日本の文学」という概念には、日本人の漢文学が含まれていました。したがって、日本文学の代表者は江戸時代の漢学者・頼山陽^{らいさんよう}です。

一方、現在の「国文学」という概念には、漢文学が含まれません。日本語で書かれている和文の文学に限るという、偏狭なナショナリズムが存在しています。ヨーロッパ文学において、母国語でないラテン語の文学を除外するのと同様でしょう。したがって、現在の日本文学の代表者は平安時代の紫式部です。頼山陽は忘れられています。

このような現状に対して、加藤周一『日本文学史序説』は以下のように述べています。「日本人は、その感情生活を日本語（ヤマトコトバ）で書いて、知的生活をシナ語、あるいは漢文で表現してきた」、「もし日本文学を読む目的が、過去の日本人の心の歴史の全体を見ることだとすれば、うまくないでしょう」（大野晋『日本語の教室』岩波新書より引用）。大野晋の同書によると、明治時代の二大文豪の夏目漱石も森鷗外も、紫式部『源氏物語』をよく分かる文章としては読んでいないようです。

一般に日本の漢文学には、作品の注釈が行き届いていません。江戸期や明治期の多くの漢文学には、注釈がありません。たとえば玉乃世履『五龍文詩』（明治 22 年発行）の注釈は、存在しません。独力で読むしかないのが現状です。島根大学名誉教授の入谷仙介先生に監修していただいて、できれば数年の内に『五龍文詩』の訳注を作る予定にしていました。残念ながら、先生のご逝去により、これも叶わぬことになりました。

入谷仙介先生への追悼

幸運にも、吉川幸次郎^{よしかわこうじろう}京大教授の愛弟子である入谷先生に、平成 10 年より漢学をご指導いただきました。いままで書いてきた歴史の論考の中で、漢学の不明な点は入谷先生にご教示・ご指導いただきました。入谷仙介先生は、平成 15 年 6 月に逝去されました（享年 69）。謹んでご冥福をお祈り申しあげます。

＜シリーズ 酒場の戯れ話＞

宇部 綿菊 仁彦

(その 6) シルクのスカンティ

某委員会の終了後に K ママの店へ、
ママ「あら、お帰り、センセ丁度よいところへ来たワ」
— 「何やネ、いきなり、エーことあるん？」
ママ「ネ、ネ、シルクのスカンティこうてーや」
— 「エー！ 出し抜けに、スカンティこうてーちゃ、何じゃらほい、時と場合によったら買うちゃらんこともないけど」
ママ「私の話、聴いてーや。私の友達が痴漢泥に入られてベランダに干していた下着を何枚か盗られたんよ。気持ちが悪かったんで警察に届けたソ、そしたら被害の程度を懇切丁寧に調べられてネ、一枚幾らぐらいのスカンティで、どれくらいの期間はいたのか（新品か中古かどうか）と根掘葉掘きかかれたそうなんよ、恥ずかしゅてこりゃなんぼなんでも安物の下着ははけんワと思うたそいネ」
— 「それでワシに下着を、しかもシルクのを買うつて来た訳じゃネ」
ママ「アッタマいいー」
— 「なんじゃい、そげな無精なことするけん、盗られるんじゃ。その日はいた下着は夜入浴時にたった一枚洗って干せば、盗られても被害はおパンツ一枚じゃが」
ママ「親父みたいなこと言わんでヨ。風呂入って下着洗うシングルの中年女っておらんよ。所帯じみて惨めじゃん」
— 「そいでもよー考えたらママには痴漢や泥棒に入られる可能性なんかないやろ、アホな痴漢に入られて、警察に聴かれたってどうということもないやんけ。高級下着だったのヨぐらいで適当にあしらっておけば

さ。ママ大得意じゃないの、虚勢を張ったりダマスのってさ。この間だってサ、お客さんにママの寝間着はどんなん？ と訊かれ、あたしネ、シャネルの 5 番よってシャーシャーと答えよったやんけ。わしにはネルの厚手のパジャマってユーとったくせに」
ママ「莫迦言わないで。犯人も、犯行がすべてうまく行くとは限らんソ、今回のように犯人が割れて、検挙されると、被害者はケーサツに呼び出されて、不特定多数の下着の山から自分のを選びださねばならなかったらしいんヨ。もーいいと言ったけど立件としての証拠物件がないと事件にならんソ。友達は恥ずかしかったけどそれに応じて、おパンツの山の中から自分のを選んだってユーとった、その上新品時の値段まで訊かれたって。私も絶対高級下着をはくわ。ネーセンセ、絹のこうてーネ」
— 「だれが買うか。ナイナイ、ママんとこへ入る痴漢はいないよ、鏡の前に座らんでもえーけん、ヨー考えてみいや、ママの下着干場にママの顔写真を一緒に吊しておくだけで十分。変態野郎は何も盗らずにスタコラ逃げ帰るって。お化けがはいとる、ウワー何ちゅう延びパンや言うて、そして二度と来やへんで。ドロちゃんが去り際に他の人のおパンツを恵んで帰るとちゃうか」
ママは凄い形相で怒り出した。勘定にプラスアルファが付くんじゃないかと心配。
— 「ジョーダン、冗談！ おさえておさえて。そやけど、なんで犯人が拳ったんやろ。よほどしつこいか常習犯かな」
ママ「よー訊いてくれた。流石センセ。これまた面白い話なんよ」

——「エー加減にせえや」今度はママは笑い呆けてきた。

ママ「彼女が別の友達のアパートへ遊びに行った時ネ、隣のアパートのある部屋のベランダに女物の下着がパラパラと干してあったらしいの。良く見るとどうも自分の盗られたものによー似とる、まさかとは思ったけど、双眼鏡まで持ち出してじっくり見てみると柄やサインがどうも自分の下着だと確信が持てたようなの。あの部屋の住人は女性？」と問うたら。隣は某社の男性独身寮だと。そこで彼女はピンと来た。例の届けた交番へひた走り……。そして犯人がひっ捕まっちゃったというお粗末劇」

——「ブルセラショップもあるというのに、この男変わっちゃるで、盗品を洗うんか？ ワシやったら洗っても部屋の中で陰干しするで。バレんように。結構間抜けな奴」

ママ「清潔感溢れる痴漢よ、きっと。アハハハ」

——「清潔感溢れる男がおパンツやら盗るか、それにしてもママの友達、ゆーきあるね、自分の下着か人の物かなど区別つかんと思うが。それでも思い切って交番へ、凄いな。ママは自分の下着、他所へ干してあっても解る？」

ママ「ちゃんとわかるいな。そーゆー訳やから、シルクのスカンティこうて」

——「新品をはいたところを見せてくれたら、考へんでもないけどナー。よし今晚のお断代として、1 枚買うちゃろ。もう一枚は R さんに頼みーね」

ママ「ワーオ、ありがとね。R さんもどお？ 一口乗らん？ シルク代金どーぞ」

M 氏「わいはママの話には乗らんで、その代わりママの身体やったら乗ってもえーでー」

ママ「えーちゃ！ とんでもない。また次の痴漢泥棒の折りにこーてーネ」

M 氏「ないない、ママんところに入る痴漢ドロなんておりゃせん、そいつぁ気狂いじゃが」

翌週のある晩、店へ入ると、どうしたことか店

の中はママと一人。

ママ「あら、おかエリ」カモ来たりでニタリと。

——「シルクのアレ、買った？」

ママ「アーこうたよ、今はいちょる。見る？」

あろうことかスカートの裾を捲りはじめたではないか、

——「チョ、ちょ、チョットよせよ！ アレ冗談、冗談ちゃ、ママが自分でスカート捲りしてどうなるんかね、気持ちだけで十分、約束通り見せようとする気持ちだけで十分、ありがとう、アリガト」

捲り上げたところへ客が来て、客が来て、渋々止めるは……。これは唄の文句ではない。ヤベー。五十も過ぎるとこれ以上亡くす物は何もないんやろか。

ママ「何じゃ、意気地なし、見とーないんか」スカートから手を離れた。

あー助かった、ぜひ見ろと強制されたらどうしようかと気を揉んだが、掠めた。

——「サー呑むで、ママのアッコの毛と同じくらしいの薄い水割りをネ」

ママ「見たこともない、見とーもないくせに、なんじゃいそれは」

——「ワシね、仕事柄見るときはお金もらってしか診んのヨ。近頃はお金払って覗くことヤメとるけんね」

ママ「あー、ソ！ 好きしいね」

それにしても女性は大変、下着を盗られたり、身体を触られたりで。昔は大家族では下着に墨で名前が書いてあって、確実に目的人の下着が盗れただろうに、そのころは痴漢ドロなどいなかったようですから。世の中そう旨くは行かないもんですねー。

隠れたおしゃれとでも言うのでしょうか、男を引きつける外見とは別に女性とは余計なお金が掛ります。そういえば大学生時代、下宿の前に 30 代半ばのご夫妻が、ド派手な色彩の下着とランジェリーを洗濯して毎日色とりどりのものを干す住人がおりましたが、家主さんらしき人から「学生さんが住んでいるので、余り派手なのを外に干さないように」と注意されたようで、ある日突然それらが見えなくなり、ほっとした思い出があります。どぎつい色彩で若いわれわれでも眉間に皺を

寄せるほどのものでした。近寄って見たくもない、盗もうなどとてもとても。濃紺や深紅の下着、ブラジャーどれも化繊でペラペラ。理性が働いた訳でもありません。干してる女性もどんなか解りません。

シルクのスキャンティの馬鹿話も一段落。それにしてもお客がだれも来ない、帰りづらい、客足が遠のいている、世は不況、夜の巷も不況まっ只中。

(その 7) 酒場のママにドレスや着物を何枚もかってあげた T 先生

T 先生「おい今夜は終わったら呑み行くぞ」
——「解りました。またあの別かれた女の所へお行きになるんですね」

T 先生「余計なことを言うんじゃない、多分な、家内には行状はナイショで一、その代わりおごるけーの」

新薬の説明会が終わって、T 先生はいそいそと、私もはぐれないように金魚の糞みたいに付いて行く。いつものスナック D の引き戸をガラッと勢いよく開けると、

「いらっしゃーい、こりゃ又お揃いで」マスターの声がかかる。

S ママ「いらっしゃいませ」いつも通り、着物を粋に着こなして、流石である。

T 先生「イヨッ、世界一、いいねその着物、ぴったり合うじゃないか」どうじゃこの胡麻の挿り様は、着物来て世界一ってなこたあないよな。日本一だよ。どう考えたって。

S ママ「ありがとうございます。お陰様で」

T 先生「よく似合ってるよ。ええじゃろ、どうか？」私に同意を促す、

——「私？ いや、いや美しい、素晴らしい」ここでケチ付けても一文の徳にもなりやしない、おごってもらえない。持ち上げて、褒めちぎって……、ヨイショっと。

T 先生「この着物、ワシがこうちゃったんだよ」ときたもんネ、

——「ン!?!」

カウンターの他の客も一瞬シーンと静まった。先生はニタリともしない。ホントですかとも聞けない雰囲気。

T 先生「今度は、もう少し赤味があった模様の帯をこうやるケ、前のアノ着物に合うようなのをな」またが一んときて白けた。

T 先生「あんたも頑張って稼いで、彼女らに貢ぐようにならにゃ、開業一人前と言われんでよ、遊びとはこれに尽きる」と小指をピョイとつつ立てて。

今度は私一人がガーンと来た。そんなに開業とは儲かるもんかなーと、ちょっと不信感もよぎり、羨望感も抱いた。噂の彼女とはこのママかとゲスの勘ぐりまでしてしまった。

ママと T 先生が、ひとしきり着物談義で呑んでいる、こちとらは蚊帳の外である。何かイチャイチャしている様子でもある。何せ私より 10 歳くらいも年上のセンセやもんね。

——「カラオケでも一発やろオーツ」手持ち無沙汰でカラオケ唄本を捲っていると、

T 先生「おーい、あれやれやアレを、長崎のザボン売り」

こんな古い唄歌ってどうするんだとゴネたところでどうにもならない、素直に歌う。

♪鐘が鳴る鳴るマリアの鐘が、坂の長崎ザボン売り、銀の指輪はどなたの形見…。

チークダンスやカラオケをお互いにごちゃごちゃやってるうちに

T 先生「おうい、メタろぞ (metastasis: 転移するの意)、マスター勘定!」

S ママ「ありがとう、楽しかったワ。またお近いウチにお揃いでどーぞ」予定どーり先生に馳走になった。

はしごで今度は M ママのスナックへ

M ママ「いらっしゃーい、あら今日は子分連れで、ご機嫌さん、W 先生も久しぶりネ」

ワシのことも覚えてくれとったんかいな。ウレチー。

M ママ「どう？ センセ、これ似合うでしょう」

T 先生「やー元気だったか、しばらくやなー、ようよう、この間の誕生日のプレゼントのドレス着てくれとるんかいな、ありがと

う。よー似合おうとるよ、流石H屋仕立て、
ようでけとる」ン！ 冗談やろ、またかい
な。まさか。

しかしちゃんと会話は繋がっているもんない。
そんなにばら撒くほどお金を儲けとるんかいな、
きっと株か、先物取引で金転がしでもしているに
違いない。奥様にも税務署にもばれない金がそん
なにあるはずがない。

しかし T 先生はじゃんじゃんホテルのである。
プライベートな話で一泊旅行の約束までしている
様ではないか。チキショウと思ってもこちとら手
も足も、口も出ない。この分では洋服と着物も一
着ずつというわけではないようである。恐らく複
数着…。

T 先生「呑んだか、またメタるぞー」

先生は上機嫌、しっかりきこしめしておられる、
しかし次の店でママに洋服か着物の話をしたら、
こりゃウソだとタクシーの中で独り決めて店へ
乗込んだ。

F ママのスナックへ、ドアベルがジャランギャ
ランと真鍮の音を立てて来店を告げる。

T 先生「おー、一杯吞ませーや」

F ママ「今晚は、あら今夜はもうできあがっちゃっ
て、ご機嫌さんネ。W センセお世話ご苦
労さん。こんなうるさい兄貴の面倒見る
の大変でしょう、我が儘で、身勝手に、
チョットすけ…」私にウインクいただい
ちゃった。

T 先生「ウルセーゾー！ ごちゃごちゃ言わんと、
はよ飲みもん出さんけー」

ここではなかなか強気です。しかもドレスも着
物の話も出ない、徹底的に呑むのと話だけ。古い
付き合いのようだけど……。先生洋服は買って
あげんのですかと訊くわけにもいかんし。

T 先生「おーい、W 君、あんたカラオケやりーね。
ママよ長崎の唄なんか出せーや」

——「センセ、新しい(?) 長崎の唄いくで、『ふ
たたび長崎』。知らんやろ」

T 先生「何、股旅長崎？ フン、そげな唄がある
んか、知らんがやってみー」

♪ふたたび長崎、思い出辿って、石の坂道、オ
ランダ坂よ、好きで別れたあの女は、妻という名
の花なのか、…

私が歌っている間に、ママといちゃついて、チー
クダンスして、マ、仕方がない、舎弟だもんね。
今夜の俺は。

——「どうですか。ウソじゃなかったでしょ
うが。歌なんか聞きもせずに、ママといちゃ
つくばかりで」

T 先生「解ったわかった。それにしてもお前の唄
はもぎたてのイチゴやな、もぎたての」

——「何ですか、そりゃ。もぎたてのイチゴは
新鮮で旨いって言うんでしょうが、セン
セ、歳の割にはなかなか洒落が効いとる
じゃないですかー。多謝、多謝」

T 先生「フン、莫迦たれが、何が歳じゃ、よー聴
いとれよ、もぎたてのイチゴにはヘタが
付いとるじゃろが、ヘタが、つまりおま
えの唄にはヘタが付いとるんや」

——「ジャカーシー！ 悪かったね、放っとい
てください。先生にそこまでユーてもら
わんでもええワ、ママよタクシー呼んで
センセ帰せーや」

ママと店の子は笑い転げているではないか。

——「チョット、あんたら、そんなに笑って客
に対して失礼じゃないか」怒ってみせる。
すると余計に「ヘタが付いとる」、「ヘタ
が付いとる」と口走って笑いが止まらん。

T 先生「あんたらが笑わさんからワシラが笑わさ
にゃいけんじゃろーが、ちゃんとサービ
スセーよ、水割りのグラスは空じゃネー
カ」笑いながらも語気は鋭い。

うんじゃら、もんじゃら言って時間は過ぎても
F ママの店ではとうとう着物も洋服も一言も出さ
じまい。帰り際に、先生と一応の押し問答の末に
も、やはり私の勘定持ちとはなりませんでした。
ごつつあんでした。

その後、とある会合で T 先生とばったり、会
合終了後に一通り喋繰って、一息入れて、

——「センセ、ちょっと訊いてもよいですか」

先生「何かね、改まって？ また呑みに行きたい
んか？」

——「いやいや、怒っちゃいけませんよ、S ママ

や M ママにあれホントに着物やドレスを買って上げたんですか？ センセのポケットマネーで？」

先生「あー、ソーや」とは言ったものの目は笑っているようだ、もう一押し、

— 「あの着物は紬（つむぎ）でしたネー、たしか。ドレスはヨー解りませんでした、それでも高そうでしたよ」

私の話を遮るように、ウワハハハハ……と高笑い。

先生「あんたはまだ夜の世の中がよー解っとらんようじゃな。あんた開業して何年になるかのう。あの晩、呑んだ話をしとるんか」また笑い出して、

— 「私？ X 年目です」

先生「年間売り上げは、なんぼか？ 開業医が億単位の納税をしておれば話は別じゃが、フツウの稼ぎなら、そこいらの彼女らに、着物やドレスは買ってやれんことぐらい解るじゃろが。ワシもそんなに金もモーケもありゃせんで、知っとるやろーが。そげな会話を信じるとは修行が足らん。まだ夜の巷の歩き方が足らんぞ」

ニタリともせず、私の顔を覗き込んでいる。

— 「しかし、あの会話のタイミングと流れは凄いですネ、付き合い時間が長くないとアーは行きませんですよ」

先生「ハハハ、それが長い付き合いと遊び心というもんじゃがね。人の気心というもんは、長い付き合いの中で培われて目と目である程度理解できるし、店の連中はパッと一瞥ただけで、今日のお馴染みさんは機嫌がよい、悪いが解るとゆーちよる。そんなもんじゃないかな。馴染みの呑み屋とは。だから楽しいんじゃよ、通い甲斐があんのさ」

— 「センセ、ところでセンセの噂の女性^{ねんごろ}はどの店のママですか。そのママとは懇な仲なんですか、今でも。ヨーおモテにらなれますからね」

先生「お前は、アホカ、そげなもん、訊いてどーするんじゃ。だれかにいーふらすつもりか。イワクが有りそうで、無さそうで、あっても他人様に喋るもんじゃない。彼女にも

傷が付くじゃろが。そいでも、あのママは彼の女や、とか、ママとあれはでけちよるとか言うて話題に挙るだけ面白いじゃないか。ホントかうソかはこちトラには何の関係のないことさ。ただワシは呑み屋の女じゃからとユーて、騙したり、莫迦にしたり、不義理をなすことなど一度もない。普通の女性と同じように誠実に、大切に付き合ってきた積もりじゃが。ここんところが一番大切、医者やからと、空威張りくさって出鱈目したら、そりゃ人間のするこっちゃない。返って彼女らからいいようにあしらわれて、酷い仕返しを食らうだけじゃ」

夜の巷の講義は延々と続く、なかなか味のある人生訓である。私を始めとしてモテない諸兄、モテたい諸兄、しっかり夜遊び訓を学んで心豊かに巷を泳ぎ廻ることをお勧めします。世は不況まっただ中、せめて夜の巷だけでも元気を出してほしいものです。



ながかった梅雨がようやく明けると、夏の到来、そして緑陰随筆が届きます。今年もここまですべて予定どおり。いやいや、予定外のことがばかり、ひとそれぞれでありましょう。

今年はなにか違っている。小泉さんは続投の気配、日本の経済はこのまま。診療報酬はどうなるの。再診料はもどったけれど、次回改訂は。なにも違っていないのでは。

それは阪神タイガースです。どうしよう、7 月にマジックがでてしまった。エース井川は 10 連勝、2 位ヤクルトにゲーム差 17、このままでは 8 月中旬に優勝が決まってしまう。ひょっとして最早記録か。この勢いはどうにもとまらない。このままでは自熱したペナント争いを期待していた全国のプロ野球ファンに申し訳ない。どうかお許してください。

18 年待っていたのです。前回の優勝、そのとき私はまだ勤務医、女房は妙齢、研修医の長女は小学生、大学生の息子は幼稚園、高校生の次女はまだ生まれていなかった。私にとって、今年は違っているのです。どうか夢をやぶらないで、このまま走らせて。

常連と新人。何事においてもあります。今年のオールスターは阪神とパ・リーグ、ご免なさい。メジャーリーグはイチローと松井。3 回目のイチローにはもはや風格が漂っています。はじめての松井は謙虚さがにじみでていました。

はたして、緑陰随筆ではいかに。今年は例年になく初出場の諸兄のご投稿をたくさんいただきました。はたまた、常連の先輩には相変わらず健筆を奮っていただきました。ありがとうございました。常連、新人いずれに勝負ありやなどと野暮なことは申しません。ただ、一言、常連には風格（概して長文）が漂い、新人には謙虚さ（投稿規定を遵守）がにじんできます。

あ と が き

編集委員 加藤 欣士郎

